滿洲日報
夕刊
發行人 鈴木昇
編輯人 橋本喜代治
印刷人 本村武盛
大連市東公園町三十一番地
發行所株式會社滿洲日報社

"滿洲に何の不安 何の危機ありや"

年頭所感の題下、ラヂオを通じ 南軍司令官の獅子吼

關東軍司令官、駐滿大使南次郎大將は年頭所感の題下に二日午前九時より約三十分に亘りラヂオを通じ官邸より全日滿國民に呼びかけた、その要旨左の如くである

◇

「一日の計はその朝に、一年の計は元旦に樹てる」といふことは東洋民族の傳統習慣である、この意味においてわが日滿兩國民は本年何を爲すべきかを檢討したい、それは先づ現下の世界の大勢を諒承する必要がある、所謂三五、六年の危機は日滿兩國のみに關するものではない

危機は全世界的である、歐米列國は不安危機は極東に在りといふが、東洋人から觀れば危機は寧ろ歐米に在るのである

◇

例へば滿洲事變以後歐米に起つた諸問題、即ち壽府における一般軍縮會議、ロンドンにおける世界經濟會議、更に海軍々縮豫備會議等何一つ纏まつたものがないではないか、特に昨年オーストリーのドルフス首相暗殺事件の如きは第二世界大戰惹起の危機一髮の情勢に直面したのである、當時伊首相ムッソリーニ氏の如き、歐洲の國際情勢は世界大戰直前と同樣である、それを未然に防いだのはイタリー軍が國境に進出警戒したからである、イタリーは明日の戰爭よりも今日の戰爭を準備しなければならぬと喝破した程である、この事件當時のフランスの狼狽は勿論、英露にも異常な衝撃を與へた、斯くの如く歐洲は不安である

◇

然らば東洋は平安かといふに斷じて然らず、日本の國際聯盟脱退實現、これに伴ふ南洋委任統治問題の派生、海軍々縮本會議、華府條約廢棄の影響等國際的に重大なる一歩を踏み出すのである、即ち三五、六年の危機は東洋にも西洋にもある、これは天が世界に與へたる試練で、之によく打克の覺悟が必要である、過去三年に亘る日滿兩國の協力奮鬪の結果は滿洲國の健全なる發展を招來し平和の基礎を築いた

◇

滿洲國の現勢を見るに、世界の獨立國七十一ヶ國中面積は第五位、人口は第九位であり、聯盟加盟國五十八ヶ國中滿洲國より廣い面積を有するものは四ヶ國人口の多いのは八ヶ國に過ぎぬ事變當時列國は勿論日滿兩國も滿洲國の治安維持を憂ひたのであるが、當時二十萬を超えた匪賊は一昨年は十萬となり、昨年は五萬、昨今は四萬に減じ、之が討伐には愼重なる態度を以て臨み、他面招撫に努力し日に平安に趨きつゝあり、鐵道、港灣水運等の施設は滿鐵の委任經營によつて着々整備し、かくて日本海は今や名實共に日本の湖水化し、日滿主要都市は電話を以て用務を辨じ、新京、東京間列車は五十時間にて到達し得る

◇

又滿洲國の幣制財政の確立は最も困難視されたのであるが、全く例外的、奇蹟的に順調に進捗し舊軍閥時代の通貨は昨年八月までに九分九厘まで回收し得、又豫算は借入金無くして編成し得る狀態である、之は滿洲國が顯著なる輸出國であつたにも因るが日滿兩國の熱心なる協力工作の賜ものに外ならぬ

◇

斯かる情勢になるに拘はらず、歐米人は世界の危機の中心が滿洲に在るといふ、何處に危機があり、何處に不安があるかと反問したい、昨年來滿せる英產業視察團バーンビー卿一行の報告書において滿洲國は英の資本と商品の供給に關し、日滿官憲から希望文書を寄せた、今や滿洲國治安恢復し、交通、衞生、教育等施設完備し、我等に良好なる市場を提供し得るであらうといひリットン報告とは雲泥の差である、之は虛心坦懷に實狀を視察した結果で、將來この滿洲國の現況を世界人に知らしめ、その期待を裏切らぬやう日滿兩國は一層の努力を必要とする。

◇

而してこの目的を達成するには如何にすべきか、即ち日滿兩國は本年何を爲すべきか、それは既定の國策を遂行するにある、即ち滿洲國の獨立を尊重し、その發展を助成しなければならぬ、併もこの第一線の責任は私であり、日滿兩國民の全幅の支持を切望する、而して其方法は日滿兩國の精神的結合と經濟統制の强化である

◇

即ち日本人は對滿政策は天の命ずる正義的道義的のものであることを認識し、滿洲國人は日本の此態度を疑つてはならぬ、而して經濟的提携には日本各界の支持を必要とする。

◇

私は今官邸の一隅から忠靈塔を拜しつゝ放送してゐるが、この忠靈塔の地下には事變以來尊き犧牲となつた三千有餘の英靈が眠つてゐる、この勇士の如き義勇奉公の信念を以てすれば、三五六年の危機を突破することは決して難事ではない、又新京市中に翻へる日の丸の國旗の下では滿洲國の少年少女が君ケ代を歌ひ五色旗の下では日本の小國民が滿洲國歌を歌つてゐる、この情景こそ日滿兩國の融和を表徵するもので眞に欣快に堪へぬ、これこそ日滿眞の握手の芽生えといふべきである。

大連の新年遙拜式（大連神社にて）

通郵問題解決から 各國民の利便多大

支那から歐洲への郵便物は 四週間が二週間に

【新京電話】滿支通郵問題解決により兩國は勿論、世界各國民衆の受ける便益は多大なものであるが九年七月、中國側の對滿洲國郵便封鎖の實情をみるに封鎖聲明以來一週間もたゝぬ間に葉書、書狀の通常郵便物は

事實上 滿洲國と中國との間に遞送された、即ち滿洲國切手を貼付した郵便物が大連を經由して中國へ配達されたものであるが、當初は附屬地の日本郵便局扱のものだけを中國側では取扱つた又中國から滿洲國附屬地外奥地に遞送される分も受付られ、是等を中國郵局側では間違つて取扱つたと苦しい言譯をしながらも事實郵便物遞送は政治問題と異り、兩國民衆相互の生活上の必要から一日も忽せに出來ぬため通常郵便物の遞送だけは行はれてゐたのである

然しながら滿洲國から中國行の郵便物も中國郵便料金の封書五錢、葉書二錢五厘の

不足稅 をとつて配達してゐたもので又郵便局長によつては嚴格にやつて受付けないところもあつた、たとへば北平などはかく嚴格で是を受付けないため最も肝腎な北支商人と滿洲國商人との取引通信など出來なくて從來不便が多かつた、第一この通郵問題解決のため九年九月二十八日以來北平に在つた日本側委員が通信解決のため必要な文書の往復に新京との通信杜絶のため弱つたといふ笑話さへある、中國が郵便物を

滿洲國を通さぬため **歐洲行** の郵便物が普通二週間で行くべきものが天津、上海、長崎、敦賀、浦鹽と遠廻りをするため四週間も費してゐた、又上海から印度洋を廻れば倍以上の五週間もかゝり、毎日五十行囊以上の歐洲行郵便物が今までこの不便を忍んでゐたものだが通郵問題解決によつてこれ等が山海關を經て滿洲國を通過、シベリヤを經て送られゝば二週間に短縮され在支外人や貿易關係者等は大助かりだと喜んでゐる

岩佐司令官の 輔佐官

矢野少將を任命

【新京電話】在滿機構實施以來岩佐關東軍憲兵司令官の職務は本職の外駐滿大使館警務部長、關東局警務部長を兼任し更に北滿路警に對する指揮權及び滿洲國警察官に對する指導權を把握し全滿警務機關統制上極めて多忙な職務にあり憲兵隊本來の職責遂行上より輔佐官を必要とするに至つたので、陸軍省と關東軍協議の上步兵第八旅團長の矢野機少將が關東軍憲兵隊司令部附に任命され新春早々赴任の途につく筈である

矢野少將は明治二十年三月二十七日東京に生れ當年四十七歲の働き盛り、士官學校第十八期生で明治三十九年步兵少尉、累進して昭和四年大佐、同九年三月少將に進み同時に步兵第八旅團長に任ぜられた士官學校陸軍大學とも優秀な成績を以て卒業した頭腦明晰な人である

（寫眞は矢野少將）

日下司政部長

三日はとで赴任

關東局司政部長に就任した日下辰太氏は三日午前十時旅順驛發車で一應大連に赴き、更に同日正午發はとにて單身新京に赴任の豫定

西南問題協議

蔣氏以下杭州で

【南京三十一日發國通】鄕里奉化に靜養中だつた蔣介石氏は廿九日杭州に到り三十日朝來孔祥熙、王寵惠、廣東財政廳長區芳浦、南昌行營秘書長楊永泰等と西南問題につき協議した、孔祥熙は王寵惠のヘーグ歸任後王に代つて對西南折衝に當る筈で今回の杭州における會議の結果を齎して王寵惠と香港まで同行胡漢民と會見することゝなつた

たこま丸

三日午後一時大連入港豫定

人事

▲稲川利一氏（新京驛長）二日正午發はとで歸京
▲小川順之助氏（大連市長）二日入港ばいかる丸にて歸連
▲吉田豐彦氏（電業會社社長）同上
▲西川國一氏（保護者聯合會代表）同上
▲西山左内氏（電々會社監査役）嚴父逝去の報に接し二日出帆うらる丸にて鄕里東京へ
▲土肥原賢二氏（奉天特務機關長）二日午後八時四十分着列車で來連

日支關係論

橘樸

一

茲で私は日支關係を日本の大陸政策の一部分として取扱つて見たい。先づ日本の大陸政策の對象を便宜上

一、滿洲國内の漢民族及び滿洲民族
二、滿洲國内及び其の他の廣大なる地域に散在する蒙古民族
三、支那國内に居住する漢民族

の三部に分ち、そして日本は如何なる關係においてそれ等諸民族を把握すべきであるかといふことを考へて見る。すると前掲の三部はそれぞれ社會發達の段階を異にするため、日本との關係も亦隨つてその樣式を異にせざるを得ない。

即ち第一のものに對しては、日本はその地主層と聯携すべきであり、又滿洲事變以來現實に聯携して居る。日本側の焦燥から時々土着地主層を動搖させるやうなこともあるが、併しそれは結局においてこの聯携の安定性を破壞するものではないと思ふ。

第二のものに對しては、日本はまだ適當な相手方を物色し得てゐないやうである。抑々蒙古社會は遊牧家畜群に經濟的基礎をおくところの沈滯的封建社會である。そしてこの沈滯せる民族は、外部から適當な庇護と刺戟とを與へざる限り唯衰亡の外なき狀態にある。即ち蒙古民族の解放であるが、このことは少なくとも滿洲國内に關する限り、日本の努力で容易に解決さるべき問題であると思ふ。

而して蒙古民族解放の要諦は第一に漢民族の政治的經濟的壓迫からの解放、第二に封建領主たる王古喇嘛からの族民即ち遊牧的生產者たる農奴の解放の二事に盡きる。

二

幸ひ關東軍當局は建國以來第一の解放運動に力強き支持を與へ、昨年十二月一日の蒙政改革を一段落として今や全民族の期待がこれにかゝつてゐる。然るに第二の解放運動に至つては、それが全問題の中心であるにも拘らず、なほその一般方針さへ立つたといふことを聞かない。私見によればこれは一つの階級問題である。即ち封建貴族に對する身分制的隷從關係から農奴を解放し、それによりて生產者たる農奴の經濟活動に刺戟を與へることである。

而してこの二重の解放運動を進展せしむるための蒙古民族内部の原動力は對立階級たる貴族又は農奴にあらずして第三者たる少數の青年知識分子に求むる外ないであらう。日本と蒙古民族との連鎖も亦當然こゝにあらねばならぬ。故に蒙古解放運動の第一着手は優秀なる蒙古青年を選拔してこれに適當なる教育を施すことにあらう。

かゝる意圖と用意との下に行はれる蒙古解放運動こそ、南京政府は勿論蘇聯のそれをも遙かに超越して蒙民大衆の信賴を博するに足るものだと思ふ。

三

滿洲にはまだ土地に餘裕があるから日本は地主と聯携することによりて比較的容易に且つ有效にその信賴を果すことが出來たが、この結合樣式は人口の過剩する支那に適しない。このことは地主階級の政權たる軍閥が已に支那の中心區域において支配的勢力たる地位を喪失したといふ事實からでも證明されると思ふ。私はこの見地から今なほ北支那又は西南方面の地方軍閥に望みを繫ぐ人々に左袒することが出來ない。かつて今日支那の支配的勢力はブルジョア及びプロレタリア政權に限られるのであるが、現在の日本としては後者は論外だから、問題は自らブルジョア政權に限定されることになる。但しブルジョアにせよプロレタリアにせよ、支那では共に最後の勝利者たることを得ず、新興の第三勢力たる農民政權に席を讓らねばならぬと思はれるのであるが、今はこの問題に觸れないことゝする

四

ブルジョア政權は申すまでもなく南京政府であつて、その經濟的基礎が上海資本家階級にあることは周知の事實である。曾て支那のブルジョアジーは所謂浙江閥及び廣東閥の二大陣營に分れてゐたがこの對立は後者が一方に南京政府との關聯において浙江閥の中から餓に擡頭した銀行資本に壓迫せられ、他方その生命の源泉たりし華僑資本が世界の恐慌の煽りを喰つて凋落したゝめに、今日では最早解消されて銀行資本を中心とする單一組織體となつてゐる。そしてこの銀行資本は一面において凡ゆる種類の企業の上にその支配を伸ばすと共に、地域的には山西及廣西を除いた全支那の財政金融界にその覇權を振ひつゝある。しかも山西モンロー主義の拋棄されそれの上海銀行資本への降服は今や既定の事實となつて居る。

抑々支那資本主義はそれの餘りに遲き發生の故に初めから榮養不良のうちに夭死する運命を負はされて居る。それに拘らず、吾人は今日支那を支配する勢力の持主がブルジョアジーであることゝ、隨つて吾人は好むと好まざるとに論なく、唯これと聯携しそれの統治を通じてのみ支那の國民大衆を把握し得るのだといふことを知らねばならぬ。この支那ブルジョアジーの全國的覇權に對しては軍閥は勿論、新興のプロレタリアートでも局部的抗爭以外では歯が立たない。かゝる情勢は尚ほ當分持續するを見ればなるまい。

五

吾人の支那政策の唯一の相手方がその國のブルジョアジーであることは前記の如くであるが、それは生憎にも支那國民主義運動の中堅であり、隨つて又排日運動の原動力でもある。これは日本が多年苦しんで來たところで、支那資本家及その政權を相手とする限り兩者の接近は望み難いといふ悲觀說の行はれる所以もこゝにあると思ふ。しかしこの考へ方は公式に拘泥して支那資本家階級の特異な構成を顧みないものである。

そもそも支那の新興ブルジョアジーの指導權は先進諸國が曾て示した軌道から外れ民族資本にあらずして銀行資本である。而して銀行資本のこの優越の原因は專らそれと南京政府との高利取引——公債引受及政治借款の供給——にあるので、關心は自然に經濟問題よりも寧ろ政治問題に向ふことになる。資本家階級の指導者の態度がこの如くである以上、それを原動力とする國民運動乃至排日運動が、著るしく機會主義的色彩を帶び、隨つて眞劍でも深刻でもあり得ないのは當然であらう。且つ日本は如何なる第三國が提供し得るよりも少なからぬ政治的及經濟的利益を支那銀行資本に向つて寄與し得るものであるから、兩國關係には一般の見解と反對に相當樂觀の餘地があるといふことはならぬ。

六

唯問題は第三國との關係である。プロレタリア政權の支持者たる蘇聯は姑く措き、日本と支那ブルジョアジーを挾んで全面的の利害相反關係に立つものはアメリカである。今日支那の政治家中資本家の多くが日本を排斥してアメリカに接近しやうと欲して居ることは疑ひもなき事實である。併しこの事實を重視することは誤りである。何となれば現時の國際情勢は半植民地國家がその政策又は好惡に任せて自主的に行動する餘地は[illegible]殘されて居ないからである。即ち日本がその欲する通りに日支關係を規定することは必ずしも不可能ではない。併しそのためには先づ競爭者たる第三國の影響から支那を引放さねばならぬ。それは勿論日本の責任であり、日本はこの責任を果すために新らしい海軍縮減方則を定立して、勇敢にこれを英米に押つけやうと努力しつゝある。この努力が完全に酬いられた曉に於て日支關係は初めて安定し、而して日本の大陸政策はこゝに一段落を劃することゝなるのであるが、併しそれは勿論一時に達成せらるべき性質のものではない。須らく氣を長く且つ溜く就中支那に對してはそれが國際的責任能力に缺くるところある事實に鑑み、特に寛容な態度でこれに臨むことが必要である。かくて一見至難なる日支關係も一歩一歩好轉して行くことであらう。

哭くな青春 (83)

三上於菟吉
吉邨二郎畫

事務所て（その十二）

けい子は、突然、あまり、きやびやかな店内に連れ込まれて、何時までも、うじ／＼してゐるのだつたが、

「何も遠慮する事は、ちつともないよ。自分で似合ふと思ふやうなのを、どれでも、取るがいゝ」

と、野山が、幾らか癇癪を起したが、むしろ、こづくやうな調子で言ふので、たうとう決心したやうに、

「これを戴いて、いゝか知ら？」

と、厚毛の鳩羽色の外套に、遠慮ぶかげに、痩せた指先を觸れるのだつた。

女店員は、妙に億劫さうに、おろたるい態度で、その外套をかけて、けい子の後ろから、寸法を合せて見るのだつた。

「大抵、このまゝで、およろしうでございますけど——」

女店員は、さう、傍らから言つた。

けい子は、銀色の、素晴らしい豚飾りのついた、天井に届きさうな、大きな姿見に、新しいコートを着た姿を映して見て、これまでの恥らひや臆病さを忘れたやうに、わが姿に、うつとりと見入るのだつた。

「少し、ゆる過ぎるか知れないけれど、レディメイドとしては上出來だ」

と、野山は、言つた、

「そして、値段は？」

女店員は、うちの店にしては一番安物だといふやうな輕蔑を、語調に含めて、

「襟に値札がついて居りますが——」

野山は、覗き込んだ。そして、内かくしをさぐつて、紙入れを取り出すと、十圓紙幣を七八枚、臺の上に置いた。

二人は、夕風が、刺すやうに吹きさらしてゐる鋪道に出た。

しかし、けい子は、もう、寒さうではなかつた。彼女は、胸を張り、肩をそびやかすやうにして、大股に、しつかりした足どりで、野山の右側を、元氣よく歩むのだつた。

野山は、やたらに、いぢらしくなつた。この上は、この娘に、あたゝかいものを、たらふく喰べさせてやりたい——さうした不幸な姪に久しぶりで、めぐり合つた親身の小父でもあるやうな、しんみりした氣持になつて、彼女を、裏通りの喰物屋に連れ込まうと、手頃の店をさがすのだつた。

「一體、君は、何か喰べたいのだい？ 洋食か、それとも日本食か？」

食傷新道のやうに、小さな喰物屋が、軒を並べた横丁を歩きながら、彼は訊れた。けい子は、子供らしく、笑つた。

「なんでも、いゝのよ。あなたが喰べさして下さるものなら、なんでも喰べるわ」

昨夜、ほんの僅か、喰べものに有りついただけでけふ一日、何もお腹に入れてゐない、このストリート・ガールも、やはり齡頃の小娘だつた。幾日、饑ゑつゞけてゐようとも、新しい、素晴らしい外套を、買つて貰つた喜びのためには、凡ての肉體的の苦痛を忘れることが出來たのだつた。

野山は、彼女を、水だきで名高い、小體な店に導いた。

それは、時々、彼が友達と會食に來る家で、女中たちは、大抵は顔馴染だつた。

「おや、まあ、隨分しばらくでしたわねえ。この頃は、すつかり宗旨をお變へになつて、カッフエばかり歩いてゐらつしやるなんて、——小山さんから伺つて、みんなで、お怨みしてゐたところですよ」

など、一番先きに出迎へた、年増女中は、細長い顔を、しやくるやうにして笑ふのだつた。

彼女の目は、けい子を、一瞥で觀察してゐた。

——何處で拾つて來た女給だらう？

女中は、心の中で、そんな風に呟いてゐるやうに思はれた。

日滿交誼もいや固く
全滿に非常時迎春譜

【新京】國都新京に訪れた康德二年の元旦は靜寂の中にも希望に滿ち、初日に惠まれ輝きは先づ新京から此の日の氣候は最高零下十度四と云ふ寒さにもめげず新京神社、忠靈塔は朝まだきより初詣の參拜をなす市民の踵で一杯、午前七時より神社に於いては國旗掲揚式が行はれ早曉から境內では熱誠な市民等に依つて日本帝國の萬歲が絶叫され、一方新任の南軍司令官は初春を迎へ先づ午前九時三十分軍司令部前廣場において軍隊職員と共に祝賀式に參列、西尾參謀長の祝辭を受けた後大使の發聲にて東天を拜し兩陛下の萬歲を三唱して祝盃が揚げられ、終つて十一時半宮廷府に參內皇帝に拜謁賀詞を奏上零時三十分より新京公會堂における吉例の新年互禮會において一千餘名の市民によつて日滿兩國の萬歲が叫ばれ日滿融和の第一聲が揚げられた國務院においては午前九時より會議室にて國旗敬禮式の後鄭國務總理の新年の辭があり終つて互禮會に移り遠藤總務廳長の發聲にて滿洲帝國の萬歲が叫ばれかくて新京の元旦は日滿兩國民なごやかな融和の裡に靜に閉ぢた

大連 空には一點の雲影さへもなく平和な光りの裡に一九三五年の新春は廻つて來た、大晦日の深夜までごつた返す有樣だつた浪速町の通りも一夜明け放たれた元日の朝はほろよひ氣嫌の年始廻り紳士淑女達が晴れやかな禮服に包まれつゝ三々五々高らかに談笑しながら通り過ぎるばかり、大晦日の疲れに商店街は一日中深く眠り續けてゐる、固く閉ざされた各デパートのショーウインドには勅題に因んだ池邊の鶴が大きくかざられて平和な春を物語つてゐるが、今年のシンボル猪だけは非常時を驀進する日本の今日の姿そのもの〻やうに描き出されてゐる、元日は大連神社だけが靜粛な街に引きかへてひとり大繁昌、市役所主催の拜賀式も行はれて約一千名の市民が參加したが夕方までには約五萬人の參拜者があつた、大連驛に乘降した客は平日よりは少く乘車が一千百三十七名、降車一千八百六十六名、共に平日よりは三百名位少かつた…毎年正月頃は張りつめた鏡ケ池の水がスケーター達にスポーツの正月を樂しませるのだが今年ばかりは例年にない暖かさのためにさうく氷が張らず池のほとりもいつになく淋しい……

旅順 昭和新春十年を迎へた旅順は前日の寒威降雪も歇み晴天明朗旭光燦さして靈地に洽く午前八時からは在旅海軍部隊を始め第一、第二兩小學校の遙拜式、關東州廳初の拜賀式は日出度舉行され、午前十一時五十分からは昭和園に於ける官民合同の名刺交換會及び旅順開城三十周年記念祝賀會が舉行され米岡市長の祝辭、君が代の奉唱、大場長官發聲にて兩陛下の萬歲を三唱祝盃を舉げて聖代を壽いだ

奉天 爵陶しく暮れた奉天も新春はからりと晴れて寒氣も和らぎ絶好の正月日和、午前零時の除夜の鐘と共に奉天神社の社頭は市民の參拜者引きも切らず黎明と共にますく人足を增し、露店商人軒を並べ車馬絡繹參拜者でごつた返す盛況、九時より歲旦祭執行、日滿官民多數參列、新春を壽ぎ、聖壽の萬歲を祈願、十時より十一時にかけ各官廳、會社、銀行、學校ではそれぐ新年祝賀の式を舉げ、正午よりは奉天高女講堂において新年互禮會を開催、先づ關屋地方事務所長の開會の辭に次いで蜂谷總領事祝辭を兼ねて非常時突破國民の團結を說き、祝宴に入り互に盃を交して新春を壽ぎ、宴酣となるや三毛〇〇隊長の發聲で皇室の萬歲を三唱同零時四十分散會したが市中は快晴に惠まれて人足繁く年賀回禮者の千鳥足に和かな正月氣分溢れ第一日を終へた

ハルビン 昭和十年を迎へたハルビン市民は日滿露人の別なく國旗を掲げ國際都市の面影を發揮してゐる、朝八時半カラリと晴れた碧空を軍用機が零下二十五度の酷寒を冒して市の上空を數回祝賀飛行をなし傳單を撒布した、昭和九年が經濟的にも治安工作上にも極めて多事だつただけに本年の正月は殊更に意義深いものがある、就中北滿の邦人は皇太子殿下の御誕生、邦人人口の增加、經濟界好轉の見通し等のため輝かしい氣持で昭和十年を迎へた、この日在哈各機關の行事は總領事館、若山部隊司令部、濱江省公署、市公署は朝十時から一同參集拜賀式を舉行、祝盃を舉げ、日本小學校は九時半、ハルビン高女は九時四十分、普通學校は十時半から夫々遙拜式及び國旗掲揚式を舉行した、また民會公會堂では午後一時から名刺交換會に續いて祝宴を紹げ、皇室の萬歲を三唱して散會した

書初め……

チチハル チチハルの元旦は粉雪の祝福一色に彩られて和やかに明けはなれ、午前七時神社社頭に零下二十度の朔風を受けて國旗掲揚式を舉行、九時の元旦祭に續いて十時半より領事館における御眞影自由拜賀、小學校の四方拜拜賀式あり、十一時チチハルホテルにおける官民合同の互禮會に五千の在滿邦人は乾盃をもつて非常時に起つ決意を固め、午後零時半よりは龍沙公園における日滿合同の互禮會に提携親善を誓つた

吉林 光輝と希望に滿ちた昭和十年一月一日の朝はほのぼのと明けた、兩帝國の國交は愈々親密を加へて行く、この日早朝より空高く澄み渡りて風なごやかに、旭光燦と輝いて平和に明けた吉林省城は正に陽春そのまゝの氣分である、先づ午前八時半吉林修養團では吉林神社建設最初の參詣をなし、これに次いで總領事館、皇軍各部隊、憲兵隊、各小學校、各機關では午前九時より新春を壽いで莊嚴なる拜賀式を舉行、同十一時半より吉林[illegible]場で名刺交換會等あり到る所今日のよき日を心から祝福して正月氣分横溢する裡に愈々非常時第一年の力強い第一歩をスタートした

營口 營口の正月はまだほの暗い中から日章旗が掲げられ、暮に樹てた門松と各戸に引廻す幔幕の定紋も朝風に波を打たせつゝ皆一樣に迎春の歡びが溢れてゐる、午前九時より領事館の拜賀式に列する人々禮服紋服衣紋正して皇室の萬歲を壽ぎ奉り、次いで小學校の拜賀式營口神社の歲旦祭、正午は小學校講堂における市民新年互禮會に參する人六百有餘名、未曾有の盛況で後はほろ醉ひ氣分の市民達〻意に家路についた、斯くして平和の港、營口の元旦は靜かだ

錦縣 錦縣の元旦は例年になく暖かく晴朗である、伊田〇〇部隊司令部を始め各部隊、領事館は十時小學校講堂に參集、夫々遙拜式を舉行し國運の隆昌と皇室の御繁榮を祈り、また軍官民合同の新年互禮會は同十一時より小學校講堂において開催參會者四百名、伊田〇〇隊長の發聲で天皇陛下萬歲、後藤領事の發聲で滿洲帝國萬歲を各三唱し冷酒を酌んで正午散會した

清津 清津の元旦は早朝すこし雪降りであつたが晝頃からは霽れて溫度十度にのぼり當地方稀に見る溫暖の元日であつた、正午から公會堂において市民の新年互禮會あり、暖氣のため市中はにぎやかであつた

熊岳城 熊岳城新年の遙拜式は日滿人合同して午前十時より小學校講堂でいと嚴かに舉行されたが、遙拜式に先だつて同校庭で兒童並に日滿人多數參集し、遙か東天に向ひ大國旗掲揚式を行つた、十一時より市民俱樂部において一般市民の互禮會を開いたが稀に見る盛會を極め十一時半萬歲裡に散會した

物々しい扮裝で 猛獸狩の壯途へ
各團員、續々赴京す

一九三五年年頭の壯舉、本社主催北滿の猛獸狩はいよく三日新京において團員一同勢揃ひをなし壯途に上る豫定であつて、各地から參加する團員は正月の屠蘇もそこのけで準備萬端を整へ勇躍して三々五々出發地點の新京に向つたが中にも大連からの參加者は早くも一日夜數名が出發し、二日の「あじあ」及び「はと」を最後に孰も物々しい扮裝に覺悟の程を偲ばせて壯途に就いたが、團長長谷部照伍少將および本社高橋事業部長、島田記者、佐内寫眞班員等は二日午前九時發のあじあで新京に向つた

"新機構無視に非ず 上京が是と信じた"
小川市長、二日大連着

工業學校豫算復活運動のため上京中であつた小川大連市長は保護者會代表西川國一氏と共に二日入港のばいかる丸で歸連したが語る

自分の今度の上京について一部で色々批難があるやうだが自分としては大連市のため最も是なりと信じて上京したのだ、工業學校設置の問題は大連市のみでなく全滿の邦人に必要な問題だと考へてゐるが、これが昨年否決の運命に遭ひ今年こそ大丈夫と思つてゐたところ、またく大藏省での運命危ふしとの情報を得たので急遽上京と決めたのだ、二十六日午前七時東京着と共に大藏省に

猛運動 を開始し、幸ひ知人關係も良かつたので否決と決つてゐたものを漸く午前中に再考とまで漕付け、その後主計局で審議が續行されたうへその日午後七時に復活が認められたわけだ、問題が時間的に早く解決したのでこれを簡單に解釋する人もあるが、自分は豫想以上にこれは難かしいと考へて全力をこれに注いだのだ、自分への批難として新機構を通さずにやることが惡いとかいふ話もあるやうだが、自分も役人生活は永く、通すべき筋合は充分に心得てをり決して新機構を無視するやうなことは無い、唯今度の問題は昨年來關東廳と連絡協調を保つてやつてゐることであるので今度も上京したやうなわけで、かつ今年實現出來れば當分駄目だと思つたのであんなに上京を急いだのだ

新全權 大使南大將に挨拶出來なかつたのも、挨拶をしてからではこの問題に間に合はなかつたからなのだ、長岡總長に東京で會つたのも決して現地機關を無視してのことでなく、今後現地で案が出來れば君の方でやつて貰ふことになるのだからよろしくと挨拶したまでだ、市政を放棄して上京するなど餘計なことだといはれる筋もあるが、市政の問題はこちらに適當なものが出來てからやるべきだと考へてゐた、とに角自分としては新機構の組織は充分に承知しており、踏むべき道を外すやうなことはなく了解の手續をとる筈で、この問題にしろ將來の問題にしろ新機構を無視するやうなことは絶對にない、誤解されてゐる向に對しても自分からよく話をすれば簡單に了解がつくと考へてゐる

市長の努力で 目的を達成
西川氏語る

保護者聯合會代表として小川市長と共に上京運動中であつた西川國一氏は、二日埠頭に上陸すると共に出迎への保護者聯合會幹事一同に約三十分間經過報告をなしたが語る

上京の時は既に駄目となつてゐたのだ、その理由は水道のやうな大きな豫算を認めてやつたからだとのことであり、またそれ程必要なら地方費か市費でやれとのことであつたが、市長は知人關係を辿つてこれに猛運動を起し中村前局長等の盡力もあり先方もこちらの熱意に動かされ幸ひ御承知のやうな好結果となつた、一部ではこれ位のことで市長が上京することはないとの意見もあるやうだが、知人關係も多い市長だつたればこそあれだけの成功が收められたので、病身を顧みず奮闘された市長に對し自分達は衷心これに感謝してゐる

滿鐵の拜賀式

滿鐵では一日午前十時二十分から社員俱樂部大食堂で新年拜賀式を舉行、沙河口鐵道工場バンドの奏樂裡に一同入場君ケ代を合唱し、總裁式辭後互に祝杯を舉げ最後に滿鐵の歌を合唱十一時前散會し、引續き滿洲館に於いて恒例の新年祝宴開かれ正副總裁各理事以下主なる社員參集、市中側からも各界の有力者交々來會し午後二時過ぎ散會したが本年は特に盛會であつた

滿洲ラヂオ普及會社設立

今回滿洲において ラヂオ受信機の販賣普及を目的として滿洲ラヂオ普及株式會社の創立を見るに至つた、放送事業の經營者たる電々會社は新設會社に對しラヂオ聽取申込の取次並に聽取料の集金を委託するもので、電々會社は新會社が滿洲における他の同業社と提携して堅實な發展を遂げ以て滿洲における放送事業の普及發達に寄與せんとを期待するものである

本社の年賀式

本社は元旦午前十時半から三階講堂に於いて年賀式を舉行、村田社長以下日本人社員全部參集、細野主幹の挨拶に次いで一同國歌を齊唱し村田社長より一場の年頭所感の辭があり、米野編輯局長の發聲で兩陛下の萬歲を奉唱し、更に滿洲日報萬歲を三唱して一同祝盃を舉げ十一時半閉會した

菊池家婚姻

在旅菊池幸吉氏長男稔氏、永尾善作氏長女マス子孃は今回石原次郎、飯島平治兩氏夫妻の媒妁に依り三十日旅順出雲大社において華燭の典を舉げ同夜五時から旅順偕行社において披露宴を開催した

埠頭に溺死體

三十一日午前十時埠頭構內第四埠頭埋立事業中の波打際に滿人の溺死體が打揚げられてゐるを發見、水上署員が檢證したが死體は帽子に手袋を穿ち一見二十二、三歲の店員風で何等所持品もなく身元不明、覺悟の自殺でないかと思はれる

上海見學團 元氣で上陸

【上海特電二日發】ツーリスト・ビューロー主催、大汽後援、上海觀光團を乘せた青島丸は元日午後二時新春の陽光を浴びて輝かに國際都市上海に到着、一行百名は元氣で上陸した

天氣豫報 (三日) 北西の風曇り 一時晴

各地溫度 (二日午前十一時)
大連 零度　奉天 零下九
旅順 二　新京 不明
營口 零下八　新義州 零下
哈爾濱 零下一二

初荷 けふは初荷、朝から近年にない初荷日和だ、景氣のい〻小旗をはためかせ乍らトラックに滿載された初荷が靜かな街を行く、勢よく廻つたお神酒に顏をほんのり染めた哥兄達の鉢卷も猪の年らしく威勢のい〻姿だ、國際運輸だけは今年から二日には初荷を出さず四日に出す事に變更した【寫眞は初荷】

トーキー時代へ 躍進するスター
三五年の榮冠誰に (下)

女優では松竹蒲田の田中絹代、岡田嘉子、飯田蝶子等は既にトーキー俳優として第一線に置かれるも川崎弘子は醜聞事件以來人氣は大分下つたが三五年度は更生し大スターとして完成された活躍をなすであらうと思はれる、新進では「春江の結婚」に拔擢された三宅邦子と「金環蝕」にデビューした桑野通子が最も有望、下加茂では相變らず飯塚敏子が最高で、時代劇に轉向した光川京子、ミス大阪堀江清子等に希望できやう、日活では水久保澄子、黑田記代、中野かほる、桂珠子等他社から引拔いたスター連中以外には有望なものは殆ど見當らないが、日活としては三五年度トーキースターとして充分期待されるものがある、日活から入社した市川春代、寶塚から入つた霧立のぼるの二人は新興女優りらしい、新興では志賀曉子といふ素晴らしいスターを掘出してゐる、「霧笛」以來の彼女の活躍は

PCL 竹久千惠子

としては珍しい程の飛躍をするであらう、大都では琴路美津子唯一人に希望、寧ろ獨立プロたるPCLの千葉早智子、竹久千惠子、協同映畫の逢初夢子、第一映畫の山田五十鈴等の方にトーキー女優として最も有望性がある。

◇

男優では蒲田は藤井貢の黃金時代となるであらう、「會社員閣下」でデビューした近衞敏明も望ましい青年である、下加茂では坂東好太郎の躍進が目立つ外さり立てて期待されるものはない、日活では現代劇部では皆無、時代劇部は大河內の一人舞臺、僅かに下加茂から入社した小林重四郎が何の程度活躍するかに興味が持てる、新興は市川朝太郎といふ時代劇の新進が「忠次賣り出す」でデビューする、果して賣り出すか何うかは今

PCL 千葉早智子

年度の興味だ、小杉勇、月形龍之介の既成二大スターもトーキーでは無聲程の演技が出來まい、獨立プロでは協映の關、江川は蒲田仕込みで試驗ずみ、第一の傳明、中野英治も大した期待は持てない、寧ろ新進夏川大二郎が一番賣り出すことであらう、千惠藏は既に發聲映畫を數本撮つてゐるが自分の聲に自信が持てぬらしい、右太、阪妻、寛壽郎も今年からは發聲を撮るが右太は既に「忠臣藏」「天一坊と伊賀介」でその貫祿を示してゐるから阪妻と寛壽郎の第一聲に興味が持てやう。

奉天鐵西工業地實相（下）

白圖上、約百萬坪の赤鉛筆の魅力

餘りに遲い建設行進

この秋の入りのことであるが、急に寒くなつたことがあつて、該地區に迷ひ込んだと覺しき支那服装の男が路傍に凍死體となつて横はつて居たのが發見された、それは一體ならず三體もあつたさうであるが、それが十二月の末記者が該地區視察を終りて本稿を草するまで取片付けられて居なかつた、若し一隅をあげて三隅を知ることが出來るものとすれば、かういふ法律的にも社會的にも康寧を保障されない地區に外國資本が喜んで若くは進んで投下されるかどうか問はずして明らかなことではないか、尤も八月十七日附滿洲國會社資本外國貨幣建許可の勅令が公布され、本位貨を異にする滿洲に於て日本金圓資本が活躍するのに障礙が撤去されたわけであるけれども、この勅令を完全に享樂するためには飽まで滿洲國法下の會社組織でなくてはならない、日本資本家達は當初より日本商法の規制を期待して居た、この期待に對する處遇がかくの通り全く豫想外であつた事實により先づ不平の聲があつた、われ等はパンを欲したのだ、然るに與へられたものは石ではなかつたかといふのである、まさか滿洲國法は石に相當するわけでもあるまいが、資本家乃至企業者の心理はまた別物であるから事實さう信じたかも知れず、少くもこの期待外れを何等かの口實に使へば使ふことが出來た、そこで不平が起つたのである。

●●

資本家達の不平はそれだけでない、まだ外に澤山ある、左に滿洲工業會が鐵西會の陳情を取り上げて當路に紹介陳情をなした要項を掲げる、鐵西會とは工業地區現在者二十四社を以て去る十月創立されたもの、滿洲工業會もまた相次いで創立されたもので宛がらこの兩者は鐵西工業地區に關する前述の不平發表機關として生れ出たやうな外貌をもつてゐる、さてその陳情要旨は

一、課税の問題にして現狀の行政管轄にて工業地區は先づ第一にこれが賦課を見るべく現に市政公署に於て工業地區特別税立案中なりと聞く、これが實施の曉は附屬地との課税均衡を失するであらう

二、奉天工業土地會社が未だ正式の法人たらざるため工業地區に於ては正式に建物保存の登記を受くること能はず延いてはこれを金融化する上に支障あり

三、工場を設置せんとする法人にその設立登記を滿洲國法人たらしむべく慫慂さるゝごとき法人たらにして日本商法により設立登記をなさんとするに對し、これを認むるに非ざれば資本進出の上に一大障碍あり

といふのである、但し有りやうをいへば「資本進出の上に一大障碍」があるかどうか、將來を見透しての觀察としては、たやすく首肯し難い論斷であるけれども、少くも現狀を以て推移するとすればかういへぬことはない、而も右三項に盛られたる不平を一層剌戟したるものは、本年十月施行せられたる統税賦課問題である、附屬地から工業地區へ工事材料を搬入する時に、滿洲國は國內税を賦課する通過税としてペイント一袋につき十八錢を徴せられたのである、同樣に搬出されるものは出産税を課せられるといふ通達であつた、狼狽したのは資本家達だ、最も痛感したのは工事請負業者等だ、滿洲國側に對する抗議も陳情も一切効なし、附屬地からの道路が一本（他は未完成）なところから滿洲國税吏がこゝを施してビシ／＼工事材料に課税した、これにより資本家達は俄に狼狽を始めこの事實から類推して投下資本の地位の悲觀すべきものたるに想着し、その結果は到頭「資本進出の上に一大障碍」と疾呼するに至つたのである、尤もこの課税問題は十一月二十二日實施の新關税法によりて解消した、その趣旨中に

「內國税を賦課する輸入品については內國税制の整備と關聯しこれが關税率の是正を行ふ事」

とあるもの卽ち是れで、滿洲國ではこの新關税法を得て初めて、これに先だつ僅かに月餘の間に徴收した通貨税賦課は不法ではないまでも、穩當を缺くだらうとの意見に轉向し、一たん取り上げた税收を納税者に拂ひ戾すことゝし、それ／＼通達を發して昨今それが實踐されつゝありといふ、それが又受領證引換の定めなるところ今はそれを紛失したものが多く折角の拂戻を受けられぬ向少からず、課税實施當時の狼狽ぶりと昂奮ぶりを今に及んで再現してゐる始末であるともいはれる、一場の悲慘なる滑稽である。

●●

陳情はなほ左の通りつゞく

一、通信は滿洲國郵便局取扱に係るため附屬地より二、三日配達が遲延する、電報また然り

二、瓦斯水道の設備を缺く

三、警備保安衞生設備がない

四、道路未完成のため交通運搬不便である

五、教育機關を缺く

併しこれには反駁が行はれてゐる卽ち右の弊は工業地區そのものゝ本質から來てゐる、從つて企業者が企業目論見の初めに於て承知してゐた筈である、今更何の不平ぞといふのである、けれどもセメント工場の周圍に集團家居しながら程經て煙突の吹く粉末を邪魔にする話は有り過ぎる程有る世の中だから、その意味からは這個の不平も存在理由を持つといつてよい、而もこれには若干の論據があるのである、土地會社の貸附條件は次の如くなつてゐる。

一、貸付期間、貸付當初にありては借受人の建築期間の滿三箇年とし竣工後に於て長期間の契約とす

二、土地借受一時申受金、會社は前記施設に巨費を投じたるを以て貸付に際し借受人よりこれが賃額一平方米に付金一圓二十錢を徴す

三、土地使用料、使用料率の高低は直接産業の興廢に至大の影響あるべきを以て會社は極めて低廉を旨とし一平方米に付月金四厘とせり

四、借地券の發行、建築の竣工後は借受人のため本券を發行し會社の裏書により不動産金融方策の途を講じたり

五、借地券の賣買、借受人は建築竣工後借受地の賣買（分割を含む）を爲すことを得るものなり

土地會社が完全に動き出す時は（四）（五）により地券や金融問題に關する不平は解消されるものとしても、未だその時期が來ないので不平が起る、而も（二）の中に「施設に巨費を投じたるを以て」一時申受金を徴するといつて居る點、一時申受金は通稱權利金といつて居るが、不平者の申分は會社がこの權利金を取つて置きながら施設をやらぬではないかといふに在り、前記不平の論據は主としてこゝに置かれてゐる、尤も不平の中で上水道のことが擧げられて居り、これは地區工事に於て下水工事があるのに上水道が無いのは如何といふて居る次第であるが、これなどは會社要覽の一節に「本地域は往昔の渾河の河床なれば十米餘の鑿井にて良水湧出し水量亦豐富なり」とあり現に造酒工場が多數約束されてゐると對照し、不平者の方に歩がないやうに思はれはする。

その外不平といへば會社の聲明では「本地域は東部に滿鐵北部に奉山線に各接壤せるを以て工業地區として最適の位置を占め物貨の集散に便利なり」とあり、而もこれは會社の施設ではないが將來の奉天都市計畫に於て、渾河の水を堀割として地區の三方を取り卷くといふ設計もあるやにて、さすれば引込線と並びて水陸双方の便利は彌增すばかりである筈であるが、不平者は「ちつとも便利ではないではないか」とこぼすのである、從つて會社が動力につき「工場電力は滿洲電業公司より供給を受くる便あり」と聲明しても動力は近い撫順の石炭があるではないかと膨れ顔して納まらぬといつた始末である。

とにかく曾て白圖の上に引かれた「赤鉛筆」はこゝまで進展し來つたのである、いろ／＼の盤根錯節はあつた譯で、就中土地會社の設立完了が遲れて居ることなどは難中の難といふべきであり、奉天商工會議所は特に之が打開のため關係者を招集十二月二十日協議を凝らすところあつた位であるが、それにしても何等かの辨法がなくて叶はぬ次第で、土地會社の辯明中に税金に就て「經營地區は滿洲國の所屬なれば當然同國の税制により納入すべきものなるも本問題は過渡期にあり現に研究中なり」といつてゐる心情こそ鐵西工業地區の現實相に恰當したる結論でなくてはなるまい。

●●

從つて滿洲工業會の陳情にあるやうな「これが打開の方策は工業地を附屬地に編入せしむる」のは先走り過ぎる焦躁感の暴露であつてその後段「速に編入至難の事情ありとせば過渡時代に處する便法を講じ工業家の不安を一掃せられんことを切望して止まず」といふところに落着くより外はあるまい、土地會社創立委員長たる關屋奉天地方事務所長の所見はかうである「いろ／＼豫期したる又は豫期せざる諸問題が出頭沒頭してゐることは事實だが、前途を見透して悲觀も樂觀も片づけることは出來ないでせう、唯善處する 實際的見地から實効を目指して善處する、これがこの問題の指導原理でありませう」とまづ以てそのへんに鐵西工業地區の行路は見出されるのであらう

履端布德　熙洽

和やかな高橋藏相邸の春

賀正

鳳凰城・開原

鳳凰城

鳳城縣公署　縣長 董毓基　參事官代理 海老澤清　總務科長 吳麟　警務局長 楊壽才　內務局長 鄂復華　教育局長 何洋林　財務局長 郭彥碩

鳳城煙草耕作組合

縣立病院長 橋下二三男

福岡洋行 福岡丈助

太田瑞穗

鳳城縣商務會 會長 白玉衡　副會長 趙連璧

鳳凰城旅館 龜井文吉

鳳城運送同業組合

驛長 安田新造

鳳凰城附屬地商務會 會長 叢國相　副會長 趙質彬

小林旅館 小林惣五郎

東亞醫院院長 李東烈

機械農場 佐藤信元

王宗武

平井大藥房 平井眞一郎

鳳城税捐局 局長 王振錦　總務課長 趙學科　稽查課長 于興亞

鷄冠山

滿鐵公醫 岩永清

清酒義正宗釀造 定光號

地委議長 吉竹爲次郎

御料理 夢野家

郵便局長 上田一男

驛長 庄野德一

松永平一

鷄冠山商務會 會長 謝粹忱

御料理仕出 驛構內賣店 小春

機關分區主任 平松謙一

開原

守備隊長 河井豐　警察署長 酒井碩二

實業會頭 川島定兵衞　副會頭 千々和正彥

地方委員議長 藤井武夫　同副議長 江尻喜峰　地方委員 上郡山九効　地方委員 佐藤祐太郎

驛長 矢口健男　小學校長 柴田亮一　公學校長 中山幸作　消費組合主事 太田武夫　貨物主任 伊奈隆二

地方事務所 所長 合田德松　藤木幹　中川正計　由之內末盛　辻正雄　竹下榮治　福田實　幸福三木夫　山田重夫

實業會 牛島義雄　松本辰吉　大重篤　坂宮成　倉岡克行　宇佐美開治

開原市場株式會社

開原電氣株式會社 電話（一二〇番 一五〇番 一二五番）

開原朝鮮人會

高粱精白 精粟 貿易商

信益商會

文鳳德

電話 三七二番 四三二番 五二七番

高粱工場 金華街　精粟工場 慶福街

カフエー アリラン

有價證券 各種債券賣買 大賀貫一商店 電話一三三番

朝鮮銀行開原支店

株式會社 滿洲銀行開原支店

株式會社 正隆銀行開原支店

上郡山 倉岡 合名會社開原屠獸場

食道樂 ニコニコ

開原縣公署　縣長 常守陳　參事官 宮內虎雄　副參事官 岡部善修

內務局長 全子章　總務科長 牛希伯　警務局長 馬海龍　財務局長 王鍾毓　教育局長 朱子青

昌圖縣公署　縣長 康濟　參事官 佐藤半重　副參事官 小曾根盛彥

開豐長途鐵軌汽車公司

落語

七福神曾我對面

入船亭 船橋

本年は亥歳でございまして前へ前へと進むらしい年でございますところで暦を見ますと今年中の事の吉凶が詳しく出て居ります。此の内「方惡」或ひは「明きの方」と云ふのがありますが、此の方角に向つて進めば何事も成就するとうでございます。そこで年頭の御祝儀に七福神がお芝居をしたと云ふ古風なお笑ひを一席申上げます。笑ふ門には福來ると申しますから本年は充分お笑ひあそばしてお暮しを願ひます。

さて我れ／＼藝人社會と申しますと、教育があり餘つて居りますので、それはそれは縁起を擔ぎまして、親愛なるマダムが、

「ちよいとお前さん、寶船を買つて置いたから、枕の下へお入れなさいよ」

「そいつは能く氣が着いたナ、二日は初夢姫初め、萬歳はオチヨケヨのマッチヤラコ鳥追ひがチヤラチヤラ、お獅子がトッピキピーと云ふ昔の唄も懷しや、名人の圓朝さんの俳句に

初夢や誰が見しもみな根なし草

併し吉夢なら根あり草にしてえものだ」

「お前さん、吉い夢を見たら、お互に話しッこにしませうよ」

「ウム宜いとも、ドレ邯鄲としやうか」

と一杯機嫌で横臥になると、

「ちよいと、お前さん見ましたかえ」

「まだ眠りやアしねえ……」

少時經つと、

「ねえお前さん、見ましたかえ」

「それぢやア眠られやしねえ、少し靜かにしてくれ……」

今度は亭主の方で、

「なアおはな……ウムもう睡たナ罪のれえ女だ。若え時は同業間でも羨ましがられた容色だツたが、年を重ねると不味い面になるものだナ。何うだい此の鼾は……なんぼ今年は猪の歳でも怖ろしい鼻鼠だ…エッもう寢言をいつて居るぜ何んだと、お前さん嬉しいれ、何時の間にか御大名になつてさ、お駕籠に召して多勢のお供揃ひで行列嚴しく、そして前から町人がやつて來ると、御先供が大きな聲してエ、ホー、側へ寄れッ！だとさ、まア大層な權式だれ……とは、オイオイおはな、莫迦に時代な夢を見たナ……オイ誰だい戸を敲くのは……ナニ竹さんだと、今時分何んの用だれ」

「何んの用だとは暢氣だ。今日芝居へ行く約束ぢやアれえか、さア出掛けやう」

「さうさう全然忘れてゐた、さア行かう……ア、好い景色だナ。大入の札が出てゐる。

「オヤオヤもう中幕だれ、曾我の對面だ、初春だから吉例の曾我だれ。オヤオヤ俳優は七福神だ、五郎が大黑樣、十郎が惠比壽樣、工藤が福祿壽樣、八幡三郎が壽老人樣だ、梶原が毘沙門樣、大磯の虎が辨天樣、朝比奈が布袋樣とは顏揃ひだれ、番附を見てさへゾクゾクする、早く幕を開けろイ」

やがて、チヨン／＼／＼と云ふ木の音、すがゞきに通り神樂で幕が開くと、舞臺一面の淺黄幕直にバタバタで伊達奴の花道から駈け出しになる。後から同じ拵への奴、追かけて出になり、花道の七三で入れ替り、舞臺へ來て能き程に止り

(白奴) 奴待て

(赤奴) 俺を捕へて何とする

(白奴) 何とするとは知れた事、其方の持つた其の一品、御慶申すとまき出しやア此場はお拂ひ扇箱獻だなんぞと吐すが最期、引つてお旦那へ曳いて行くから覺悟しろ

(赤奴) ムハヽヽ、洒落臭え其の一言、俺がものした此の一品、汝等に渡してなるものか、一文凧の奴殿、糸目の切れぬ其内に、春風食つて消えてなくなれ。

(白奴) 成らぬとありア一寸斷うして。

(赤奴) 何を小癪な

と鳴物は八千代獅子にて立廻り赤奴はポンと當る。白奴ウームと氣を失ふ。

(赤奴) 口程でもねえ脆い奴だ、ウムこの間にさうだ。

と上手の揚幕へ入る。後に白奴氣が付き、

(白奴) 僅かな當身に氣を失ひ奴めを逃がしたか、遠くは行くめえ後追つ蒐けてオウさうだ。

と上手へ追つて入る、あと長き夜の誂唄になる。

「長き夜のとをのねふりのみなめざめ、浪乘船の音のよきかな」

と唄切れると浪音を冠せて淺黄幕を切つて落す。

舞臺一面に浪の遠見、大海原、浪音を冠せてセリの鳴物になり、舞臺眞中へ五色の金襴へ金糸銀糸を以て寶と云ふ字を縫ひ出した寶船の帆、セリ出して段々と朱の高欄、龍頭の寶船が舞臺一面にセリ上る。

七福神、各々役々の心地にて對面の見得よろしく道具止る、鳴物——音樂。

(辨財天) 殿御ばかりの其中へ、虎とは少將慮外ながら、顏も御多福辨財天。

(毘沙門) よしや吉原大門を荒出立なる毘沙門は、髯を見立にげじげじと、梶原扮裝の敵役。

(壽老人) 壽老と云へば壽の持ち出したる盃の、赤いはこれぞ赤澤山、さいつ押へつ皆さまが、酒たしひの木小楯に取つて。

(福祿壽) 射落させしは斯く云ふ祐經、元日二日三ケ日に、自然と此の身に備はりし、是ぞ正しく福祿壽仙、早く祝儀を唄へ唄へ

(惠比壽) 惠比壽三郎祐成が、岩ゐる折しも、手に應へしはたしかに大物、手繰りて見れば是ぞこの御代も目出鯛、此の場の對面。

(大黑天) 注連かけて、岩の戸排けし驚の、天上天下唯我獨尊、釋迦牟尼佛の化身にて、河津が小槌の五郎時宗、父の敵工藤左衛門祐經殿、イザ尋常に勝負々々。

(布袋) コレサ、朝比奈ならぬこの布袋が、茲にヅッシリ控へてゐる、わるいやうにはしれえから、腹も立たうが春の御祝儀、俺に免じて耐へろ、布袋ろ。

と、おのおの引張りの見得。舞臺の正面へ初つ日の出がセリ上り、陽氣な鳴り物にて幕になると亭主は思はず大きな聲を揚げました。

「蓬來屋アー」

スルト家内が吃驚しまして

「モシお前さんお前さん」

「ア、ー」

「欠伸どころぢやアないよ。あたしが熟く睡つてゐるのに、突然、蓬來屋アーなんて胴間聲を揚げてサ、何になさいされて居たんだよ」

「ウム、そんなら今のは夢であつたか」

「お氣取りでないよ、そんな寢ぼけツ面をしてサ、見られたものぢやアないよ、若い時分には面長のところが五代目に似てゐるッてれ、お友達からも羨ましがられたものだが、年を重ねると不味い顏になるものだ事。(そんなら今のは夢であつたか)なんテ、役者衆の身振りなんか、如何に今年は猪の歳でもあんまり向ふ見ず過ぎるよ」

さ、スッカリ先刻申しました私の假聲を遣つたのには弱りましたね。それでもまさか初春さうさう喧嘩も出來ませんので

「まア宜いやナ、實はあんまりお目出度い夢を見たので、思はず蓬萊屋アーと賞めたのさ」

「それはよかつた事れ、どんな夢なの」

「面白かつたぜ。併し吉い夢を見たら三日の間他人に話すものではないと云ふから、止して置かう」

「オヤ、變な事を仰しやいますれ、へエー、わたしは他人でございますか、そンな事を言はれた義理ではありますまい、そも／＼お前さんとの馴れ初めは……」

「止せやい、若しも外へ洩れて、新聞か雜誌に書かれたら何うする、人氣稼業の我れ／＼だ、世間樣の嫉みでも受けた日には、取り返しがつかれえやナ、今ウッカリ他人と言つたのは、智者も船橋の一失だ」

「お洒落でないよ。それでは其の芝居の話をなさいよ、面白いッて何の狂言なの」

「狂言は曾我の對面だが、其の出勤俳優が素敵だ」

「まア、誰と誰だの……」

「それはおめえ七福神だ」

「まア」

「役割はお預かりとして、その當り祝ひとして貰つた大入袋を開いて見ると……」

「な、な、なにが出たの……」

「さう押すなよ。それが五枚の債券で、直と翌月五枚共五千圓宛の當り籤で、五々の二萬五千圓の收入だ」

「まア／＼、モ一ッ附錄にまア……それから銀行も大丈夫な所にしたらうれ。何と云ふお目出度い事だらう、わたしはお前さんがお大名になつて御駕籠で、下にら下にらうとお練りで來る、町人などが近づくと(エ、ホー側へ寄れッ)てさ、それはもう聞いたッて……お目出度い事は幾度言つても宜いよ。

目出度々々が三つ重なれば、下の目出度が重からう。

といふ都々逸もあるよ。アラ、夜が明けたと見えて大層戸外が賑やかになつて來たよ、ガタピシ雨戸を開けて見ますと、お手鞠し能く、向ふの方から七福神樣が御行列で、拙宅へ入つて來ますから、わたくしも家内も大喜びで、

「ヘイヘイ七福神樣、お早ばやと……」

夫婦は低頭をしますと、

「惠方……あきへ寄れ」(完)

不便な正月

石川 進

A「一寸ハンドバッグ拾つてよ！」

B「アラ！御自分で拾へないの…」

A「だつて！お餅食べすぎて、帶の加減で拾へないのヨ！」

B「ホッホッホッ不便なお正月だこと！」

モダン小咄

歸つて來た理由

夫婦喧嘩は何とかも喰はぬと云ふが、戀愛結婚で一緒になつた彼と彼女氏、一夜大論戰の揚句、遂に彼女氏はお定りの家出となつてしまつた、彼氏彼女の出て行つた後、明日からどうして飯を煮やうかと思つてあゝやつぱり妻がゐた方がよいと心配してゐると、出て行つた筈の彼女が歸つて來た、だが彼氏

「おい、出て行つたものが歸るなんて何のことだ」といふと彼女の返事に

「だつて、もう一生あんたのとこへなんか歸らないと思つて行つたんですけど、電車の車掌さん、お忘れものはありませんか、お忘れもののないやう御注意ねがひますつてしきりにいふんですもの」

うぬぼれ

友人が彼の結婚のことで心配して來た。

友人「だが、あの女は、なんだか氣が許せないところがあるよ」

彼「いやそんなことはないよ、ほんとに正直一方さ、といふ譯は昨夜逢つた時僕の事を世界一の色男だつていつてゐるんだぜ」

却つて赤面

奧樣「子供といふものはすぐに大人のまねをしたがるものですから少し氣をつけて下さいよ」

女中「本當でございます、この間もお坊ちやまは、私や嫌だ嫌だと申しますのに……」

奧樣「どうしたんです」

女中「……キッスをなさるんでございます」

目的

母「坊や、泣くのをおやめなさい一つ年をとつたんですから大きくなつたのよ、れ、坊やの好きなおかちん上げますから」

子供「いや／＼、もつと泣くよアーンアーン」

母「まあ、どうしたんでせう坊や」

子供「だつて大きくなつたんだから、おかちんそればつかしぢや足りないんだよー」

泥棒の一幕

刑事「オイきさま、何回厄介をかけるんだ、だがな、人間の性は善良なものだ、何か一藝に秀でゐれば、いやばに出ても喰つて行ける、一體きさまは何が得意か」

泥棒「たつた一つ泥棒だけです」

何が何だか

新婚の妻とその良人

「薪もお炭も御飯おいしくたけないんですもの」

「ぢや瓦斯にしようか」

「瓦斯はいや、新聞見ると瓦斯心中なんてあるんですもの」

「ぢや電熱にしようよ」

「電氣はなんだか危險れ、それにメートルをくふし」

「ぢや、いつそパンにでもしつちまふか」

謹賀新年

皇紀・2595・

哈爾賓

濱江省公署
省長 呂榮寰
總務廳長 金井章次
民政廳長 李叔平
警務廳長 赤澤辰三郎
實業廳長 葆廉
教育廳長 梁禹襄

北滿特別區長官兼
哈爾濱特別市市長
呂榮寰

哈爾濱特別市公署
總務處長 佐藤正俊

北鐵路督辦公署
督辦 李紹庚

第四軍管區司令官
北滿鐵路護路軍總司令
陸軍上將
勳一位 于琛澂

江防艦隊司令官
司令官 尹祚乾

哈爾濱總領事館
總領事 森島守人

哈爾濱路警處長
李桂林

哈爾濱稅關
稅關長 兪紹武
副稅關長 江原綱一

哈爾濱鐵路局
局長 佐原憲次
副局長 吳英元

哈爾濱水運局
局長 佐原憲次

哈爾濱郵政管理局
局長 岐部與平

北滿興業株式會社

哈爾濱航業聯合局
總經理 高畑誠一

國際運輸株式會社
哈爾濱支店
常務取締役兼支店長 岡崎虎雄
支店長代理 津村精太郎

滿鐵哈爾濱建設事務所
所長 石村長七

哈爾濱セメント株式會社
專務取締役 辻光
哈爾濱地段街

北滿電氣株式會社
哈爾濱道裡透籠街三二號

百貨店
松浦洋行
電話三三九一 六四九一 三九八九 六四九二

前田時計店
前田利男

和洋紙文房具商
近澤洋行
澤田佐市
哈爾濱道裡中國十四道街
電話三七八四 四一八七 五二八六 五二八七 五七一〇

日滿製粉株式會社
中澤正治
(大連火曜會員) 哈爾濱八站

哈爾濱交易所
島田千代治

高田號
哈爾濱道裡石頭街一〇號地

哈爾濱交易所
奥平廣敏

大阪每日新聞
滿洲日報
販賣店
森本柳作
哈爾濱石頭道街
電話三三八三番

哈爾濱旅館組合員
哈爾濱ホテル
花屋ホテル
北滿ホテル
北興ホテル
東洋ホテル
大陸ホテル
鶴屋旅館
名古屋ホテル
ナショナルホテル
樂山莊
雲仙莊
大和旅館
滿洲ホテル
二葉旅館
紅葉館
亞細亞ホテル
朝日旅館
佐賀ホテル
榮屋旅館
商務旅館
昭和旅館
敷島旅館
松花ホテル
日の丸ホテル
國際ホテル
中央ホテル
日隆ホテル

賀正

西暦・1935・

本溪湖・清津・新京

本溪湖

本溪湖煤鐵有限公司

伊藤幸雄　石川博見　井門文三　伊藤唯熊　大内佐藏　梶山又吉　上村政次郎　谷本憲一　野尻虎　山下寛　山本福三郎　増田増太郎　藤田仁知吉　小島喜久馬　小笹福太　荒木利恭　鮫島宗平　日高長次郎

滿洲銀行本溪湖支店

本溪湖株式會社

（いろは順）

地方委員

守屋逸男　森雄二　阪田房夫　小林太市　宮崎小三郎　溝上已之祐　西松廣馬　野村一郎

清津

文化具品、紙類、雜貨卸商　アサヒ地下足袋・アサヒ運動靴　朝鮮清津府明治町　上田廠商店　松岡茂藏　取引銀行 朝鮮銀行清津支店・朝鮮殖産銀行清津支店　電話二六番・電略（ウ）

清津雜貨商組合（ハロイ順）　[illegible]

咸北清津府清津驛前　合資會社 滿鮮車體製作　特許保税工場 清津府浦項洞七八　分工場 滿洲國間島局子街　電話一九〇番

清津府浦項洞　北鮮製油株式會社

レコード石鹸製造元　合同油脂株式會社

清津府彌生町　合名會社 イトウ商會　電話三二一番

朝鮮咸北清津港　合資會社 大一商會　清津出張所　電話一二四番

清津府敷島町　清眞醫院

清津　鐵道醫院

清津府明治町　旅館 鶴林館　電話（旦）三二一・五四番　卓上電話各室

清津　國際ホテル

清津旅館　清進館

清津カフエー組合　ライオン食堂　大阪　夢路　ミナト會館　ミカド會館

清津飲食店組合

清津料理屋組合　浮月　高砂庵　み乃軒　精養　水月　抹や（※縦組）

滿鐵北鮮鐵道管理局

朝鮮咸北清津彌生町　株式會社 松本組清津支店　電話二一五番

清津府廳

清津商工會議所

清津土曜會　朝鮮銀行支店　朝鮮殖産銀行支店　朝鮮商業銀行支店　清津無盡株式會社

清津府相生町一　清津輸移出穀物商組合　電話四〇六番

清津材木商組合

清津港松坪　朝鮮油脂株式會社

朝鮮電氣株式會社　清津府彌生町

清津府北星町三二番地　國際運輸株式會社清津支店

北鮮滿鐵土木建築業協會　事務所 羅津　（清津イロハ順）

[illegible]

新京

新京中央通一二番地　東亞產業協會

滿洲火柴公賣承辦處　長春洋火工廠　寶山燐寸株式會社　日清燐寸株式會社　吉林燐寸株式會社運送部

本店 奉天青葉町一四　土木建築工事設計施工請負　碇山組新京出張所　新京興安胡同一〇三　電話三五三九・五八二三番

首都警察廳警務科長　谷口慶弘

滿洲航空株式會社新京管區管區長　樋口正治

滿鐵地方事務所所長　荒木章

新京警察署長　高山勝司

新京地方委員會議長　大原萬千百

新京鐵道事務所長　芳賀千代太

新京郵便局長　高橋富十郎

滿洲電業股份有限公司文書課長　須藤清

南滿洲瓦斯株式會社新京支店長　青木哲兒

新京蓬萊町一丁目一五　堀山產婦人科醫院　院長 堀山研作　電話三一八〇番

新京八島通四十二番地　福昌公司新京出張所

新京取引所信託株式會社　專務取締役　山下善代

新京朝日通七九　岡組新京出張所　電話（長）二七八八番

新京八島通七七　福井高梨組新京出張所

大信洋行　村上照

新京日本橋通　金泰洋行　電話二一五九番

新京日本橋通　林洋行　電話二一六五番

新京日本橋通　和登洋行　電話二〇四〇番

新京日本橋通　品川洋行　電話二三五七〇・二九七六・三九二番

名古屋日滿通商親睦會　名古屋優良品紹介所　新京東五條通り三番地　電話（長）五二五六番

世帶道具と食料品の店　新京中央通三六　遠藤洋行　電話六七四九番

新京中央通三六番地　内田洋行新京支店　電話（三四）一七一四〇・四六番

新京日本橋通　新京百貨店　電話（三）一六六三・一七番

資本 國幣六百萬圓（全額拂込濟）　主要業務 當業、造酒、製油、雜貨賣買　財產の管理、代理業、公債社債券其他有價證券の募集並びに引受及び滿洲土產品取扱　大興股份有限公司　本店 新京特別市北大街第三十六號　支店 奉天、新京、吉林、哈爾濱　營業店 滿洲國内重要地一二六ケ所

新京自轉車組合員一同

新京旅館組合員一同

本店新京　名古屋ホテル（日本旅行協會々員）　支店 哈爾濱、吉林　電話 事務所二二〇七　交換臺二五四〇・四九八九・四九九〇

新京中央通　國都ホテル　電話代表四四一五番

新京大和通　向陽ホテル　電話代表三八八二番

新裝なる　扇芳グリル　支配人 落合幸三郎　新京永樂町一丁目一　電話四八〇四番

新京北州外料理店組合

新京三業組合　三業檢番

新京第一料理店組合

新京カフエー組合員一同

關東廳遞信局・陸軍滿洲國政府指定　三菱商事株式會社・大連火災海上保險株式會社・明治生命保險株式會社・東京二葉屋商會代理店　自動車 自轉車 人力車 オート三輪車 並附屬品　建築用川砂及煉瓦　輸出入商　日米商會自轉車　米國インデアン自動自轉車　ジャーアント號自動三輪車發賣元　松田の自轉車軍用號　岡本製作所能率號　松田商會本店　滿洲國新京大馬路四九　電話（長）三九四・七六八・四九八番　振替大連六一〇八番　支店 大連市大正通　電話（長）九六三・九七二番

新京三笠町二ノ六　青葉　電話二九四二番

新京吉野町三丁目　やよい　電話（長）三四九〇・五五三八番

新京吉野町三丁目　永樂　電話（二）五一七・二三九番

新京三笠町二ノ七　ダンスキヤピタル　電話三八〇六番

日本タイプライター株式會社新京支店

新京梅ケ枝町　山葉洋行新京出張所　電話二五七一番

久松治　同仁病院

伊藤惣次郎　北原紙店

赤木洋行　廣春洋行

みしまや呉服店　やまき呉服店

江戸屋菓子舗　森野商店

油類一切並撫順米販賣　撫順公司　滿口舎　電話二四四三番　滿洲日報販賣店

滿洲日報・大阪毎日新聞販賣店　大毎舎　文房具及紙販賣　電話二〇一七番

親鸞聖人 (88)

登岳篇　吉川英治作　山村耕花畫

大衆（九）

「どうしたのぢや、七郎どの、――いや孤雲どの」

「まあ、聞いて下さい」

庄司七郎の孤雲は、岩に腰をおろした。性善坊も、草むらへ坐つた。

憮然として、孤雲は、宵の月をながめてゐた。何か、回顧してゐるやうに。

やがて、そつと、瞼をふいて、

もう何年前になるか、あの六條樣のお館へ、間者に入つて、捕まつた年からの事です」

「うむ……」

「主人の成田兵衛から、不首尾のかどで、暇を出されたので、家にある老母や妻子にはすぐ飢ゑが見舞ひます。そのうちに、京の大火の晩に、足弱な老母は、煙にまかれて死ぬし、妻は病氣になる、子は、流行病にかゝるといふ始末。さやかうと、惡いことつゞきのうちに、この身一人、生きながらへて、後の家族どもは、皆あの世の者となつてしまひ申した」

「それは、御不運な……」

性善坊は、慰めようのない氣がした。あの、平家の郎黨としての兵ぶりは、今の孤雲の影のどこにも見あたらない。

「一時は、死なうかと、思ひましたが、戰ならば、死れもするが、武家の飯をたべた人間が、飢ゑや不運に負けて、路傍で死ぬのも殘念でなりません。――そのうちに不幸は、私のみでなく、舊の主人成田兵衛さまも、宇治川の戰で、何かまづい事があつてから、御一門のお覺えもよからず、又、御子息の壽童丸樣は、次の、源氏討伐の年に元服して、初陣したはいゝが、人にそゝのかされたか、臆病風にふかれたか、陣の中から脱走して、お行方知れずになつておしまひなされた」

「おゝ、あの、日野塾でも、範宴さまと御一緒に、机をならべてゐた若殿でござつたな」

「さうです。……爲に、父の兵衛樣は、人に顔向けができないと云つて、門を閉ぢてをられましたが近頃、宗盛公から、死を賜はつて自害されたといふ話……」

「あゝ、悲慘。――誰に會つてもそんな話ばかりが多い」

「ふり顧つてみると、十幾歳のお年まで、お傅役として、壽童丸樣のおそばに仕へてゐたこの私にも大きな責任がございます。――自體、吾儘いつぱいに、お育てしたのが、惡かつたのです。ひとり、壽童丸さまばかりでなく、平家の公達のうちには、戰を怖がつて、出陣の途中から、逃げてしまふやうな柔弱者が、かなり多いのではございますが、まつたく、私のお傅の致し方にも、多大な過ちがありました」

「しかし、其許ばかりの罪ではない。御兩親の罪――また平家自身の作つた世間の罪――。何ごとも時勢ですから」

「でも、何うかして、いちど、故主の靈をなぐさめる爲に、壽童丸さまの行方をさがして、御意見もし、又、微力をつくして、一人前の人間におさせ申さなければ、濟まないと思ふのです」

「よう云はれた。暇を出された故主のために、そこまで、義をわすれぬお心がけは、見あげたものだ。――して、範宴さまを、訪ねてきた御用は」

「人のうはさによると、戰ぎらひの公達は、よく、三井や、叡山や、根來などの、學僧のあひだに、姿をかへて匿れこむ由です。御像にすがつて、中堂の坐主から、もしや壽童さまに似た者が、山に登つてゐるか、ゐないか、お調べが願ひたいと思つて、やつて參つたのでございます」

話し終つて、孤雲は、首を垂れた。足もつかれてゐるらしい、胃も渇いてゐるらしかつた。

若旦那日本晴れ

中央館第三週上映

「與太者シリーズ」に對抗する蒲田のもう一つの名物に「若旦那シリーズ」がある、お正月生れた「若旦那物」は「日本晴れ」と命名され、お正月のエクランを狙つたものである、監督は例によつて清水宏、主演は藤井貢、蒲田の女大御所栗島すみ子が一枚加はつて今度はオール・トーキーの八卷もの

落第ばかりしてゐるが今度はどうやら卒業しさうなラグビー選手の若旦那金太郎は父金兵衛と競爭で小唄の師匠美鈴派久江の下に通つたことが祖父に知れ、父と共に家を出て久江の下に養はれるが、この爲結婚申込み者は全部手をひき、その上戀人の松子まで失戀させてしまう、時に大學ではラグビー試合を控へて金太郎を必要とし、淚ぐましい友人の活躍で歸參がかなひ、遂に優勝し、戀人も手に入れる

小唄師匠通ひとラグビー試合といふ全然異なつた味を二つつき合せて至極陽氣な物語りが發展するが「若旦那」ものでも傑出したストリーを持つてをり、豫想以上に面白く見られる、清水監督は栗島の小唄と、坂本の咽喉とを巧に利用してトーキー的効果をあげ笑ひにも成功してゐるが、映畫的には前半の小唄稽古に成功し、ラグビー試合には失敗してゐるといつてよからう

藤井の若旦那、坂本の父、武田の祖父は相變らずの明朗さを持つて三代記の名を恥かしめなく、栗島の久江は好ましい演技、池田監督に於ける臭味がないだけでもいゝ

さもあれこの一篇は「若旦那」ものゝ傑作であり、春の銀幕の一名物であらう―S―

新興音響版 鞍馬天狗

映樂館二週

新興キネマ提供の寛壽郎プロ新春特作オールサウンド版で、三部曲十一卷、第一回のオール・サウンド版であるが原作は大佛次郎で監督は曾根千晴、嵐寛壽郎とその一黨の外に新興より松本田三郎、月澄江が應援してゐる

幕末江戸を騒がす鉞り組に關し薩州藩が糸をひいてゐるとの噂が立つ、これを知つた鞍馬天狗は薩州の名譽、ひいては官軍の名譽のために眞僞を探るべく鉞り組の本據を狙ふが、鉞り組を續つて橋場の清七といふ江戸ッ子氣質の男と建部新太郎といふ覆面の怪人物が出沒し、料理屋かれだの娘お照をからまして鞍馬天狗を惱ますが、天野八郎等の彰義隊上野旗揚げの當日、建部の屋敷に鉞り組は全滅、鞍馬天狗に凱歌が上揚るが、建部新太郎の正體は……

以上のストーリーの如く筋は大佛次郎一流の興味中心で描かれてゐるため肩がこらず樂に見られ、お正月の娯樂物としては喜ばれやう第一回のサウンドも非常に効果をあげてゐるが、正月封切に急いだためか撮影に無理のあるのは惜しい寛壽郎の鞍馬天狗は十八番物だけに颯爽としてゐる

新春二週物 ▼多情佛心 協映第一回作品、日活館第二週上映、寫眞は右より岡、江川、逢初 ▼鞍馬天狗 寛プロ第一回サウンド版、映樂館二週上映寫眞は寛壽郎の鞍馬天狗

賀正

公主嶺・鞍山

公主嶺　鞍山

公主嶺地方事務所長 前田鉞雄

公主嶺警察署長 中川義治

公主嶺地方委員
議長 中本保三
副議長 大口靖太
議員 小松光治

（イロハ順）
滿洲銀行支店長 伊香善五郎
電信電話局長 吉川修平
懷德縣長 孫潤蒼
驛長 村瀬政之助
國際運輸營業所主任 山本正夫
正隆銀行支店長 増田重雄
大同電氣會社支店長 古川三郎太郎
在鄕軍人分會長 小松八郎
小松齒科醫院長 小松用太
懷德縣參事官 佐藤虎雄
滿鐵病院長 三田泰三
郵便局長 水口宇三郎
公學校長 宮野入傳愛

公主嶺地方事務所各係長
大瀧正寛
羽村洋雄
鶴見守孝

大同電氣株式會社公主嶺支店
公主嶺石炭商組合 合利洋行 松昌公司 新華公司
滿洲銀行公主嶺支店
正隆銀行公主嶺支店

公主嶺藥業組合
公主嶺特產物商組合
公主嶺金融組合

陸軍御用達 和洋雜貨食料品 高取商行
武富洋服店
柳寫眞館
和洋雜貨、書籍雜誌、蓄音器類 小久保洋行

陸軍御用達 食料品、和洋雜貨、世帶道具 榮商店

陸軍滿鐵御指定 丸福旅館

公主嶺驛構內食堂 滿鐵倶樂部食堂
市場町 大丸旅館

公主嶺驛前 公主嶺ホテル
高等料理やまと 電話一九七番

松原興行部

泉町 虎屋樂器店
花園町 高等御料理 喜久家
朝日町 カフエー 三邦
カフエー 國際會館
朝日町 生そば 第二更科
すし 會席御料理 いろは

滿洲興業株式會社 本社 鞍山北二條町

滿洲土木建築業協會 鞍山支部

滿洲電業股份有限公司 鞍山支店

鞍山鋼材株式會社 本社工場 鞍山

滿洲亞鉛鍍株式會社 本社工場 鞍山

株式會社 昭和製鋼所
本社工場 鞍山
出張所 大連、東京

鞍山不動產株式會社 本社 鞍山南三條町

鞍山火曜會

鞍山中初等學校長團

鞍山市場株式會社

湯崗子溫泉株式會社

鞍山輸入組合

滿洲銀行 鞍山支店

正隆銀行 鞍山支店

鞍山郵便局長 阿部敬四郎

鞍山電報電話局

滿鐵鞍山病院長 間野山松

鞍山地方事務所長 森景樹

鞍山守備隊長 酒井勝利

鞍山地方委員議長 長井次郎

鞍山地方委員一同

滿鐵鞍山病院一同

鞍山銑鐵共同販賣所

鞍山石炭販賣所

國際運輸 鞍山營業所

鞍山地方事務所
今三郎
吉田庫人
深井俊彦
宮本傳吉

鞍山金融組合 理事 小股忠助

清水組鞍山出張所 野上一郎

田代證券公司 田代貞雄 北一條町 電話一六六 七三六番

現株賣買 松尾商店 北三條町 電話一五一 五四九番

徳泰公司 鞍山出張所 南三條町 電話一八六 五四三番

現株賣買 南滿商券 北三條二 電話六九九番

バージユン 北三條町 電話三九番

齋藤寫眞館 敷島町 電話七七〇番

一般倉庫精米業 日滿倉庫 線西明治通 電話二九四番

永順洋行 徳井商事公司 徳井資弘 南四條町 電話四七一番

左官請負 千葉幸太郎 四條町 電話四六五七番

蓄音機レコード樂器 榮商會支店 北二條町 電話六四五番

菓子煙草 松屋 北二條町 電話三七八番

喫茶 ミチル 北二條 電話四七四番

活動常設 演藝館 北一條町 電話五七九番

石川病院 北一條町 電話七三番

時計貴金屬商 蓄音機レコード 北川金光堂 北三條町 電話三五九番

運動具 最上商會 北二條町 電話五三五番

日用品呉服雜貨 滿洲購買組合 北三條町 電話五〇四 一〇一番

書籍文房具 大盛堂 北三條町 電話二四〇番

やまき呉服店 北三條町 電話二二三番

鞍山映畫館 世界館

御用達雜貨 神田商店 敷島町 電話五〇番

銘酒 白松酒造合資會社 大和町 電話二二四番

御料理 橘家 柳町 電話三一三 五五番

御料理 一樂 柳町 電話一一七 五七番

食道樂 銀蝶 電話一一一番

食道樂 濱乃家 電話九一番

鳥料理 鳥福 電話三六〇番

割烹 一花 電話一八七番

レストラント キワダ 電話二六八番

御旅館 扇屋 北三條町 電話四二七番

御旅館 近江屋ホテル 北二條町 電話三二三八番

大信洋行 鞍山出張所 大和町 電話一三三番

建築材料商 叶井商會 南驛前通 電話五六五 六七番

家具装飾 一ノ瀬商會 北三條町 電話一八八番

化粧品小間物 野田洋品店 北三條町

小間物商 近藤商店 北二條町 電話四〇七番

現株賣買 鞍山證券公司 北二條町 電話三八〇 五八二番

新聞販賣 外山洋行 北二條町 電話四四四番

滿洲日報販賣店 精文堂新聞部 北二條町 電話八〇番

滿洲日報 鞍山支局 南三條町 電話一〇四番

滿洲日報
夕刊
發行人 鈴木昇
編輯人 橋本喜代治
印刷人 本村武盛
大連市東公園町卅一番地
發行所 株式會社滿洲日報社

"滿洲に何の不安 何の危機ありや"

年頭所感の題下、ラヂオを通じ 南軍司令官の獅子吼

關東軍司令官、駐滿大使南次郎大將は年頭所感の題下に二日午前九時より約三十分に亘りラヂオを通じ官邸より全日滿國民に呼びかけた、その要旨左の如くである

◇「一日の計はその朝に、一年の計は元日に樹てる」といふことは東洋民族の傳統習慣である、この意味においてわが日滿兩國民は本年何を爲すべきかを檢討したい、それは先づ現下の世界の大勢を諒承する必要がある、所謂三五、六年の危機は日滿兩國のみに關するものではない

危機は全世界的である、歐米列國は不安危機は極東に在りといふが、東洋人から觀れば危機は寧ろ歐米に在るのである

◇例へば滿洲事變以後歐米に起つた諸問題、即ち壽府における一般軍縮會議、ロンドンにおける世界經濟會議、更に海軍々縮豫備會議等何一つ纏まつたものがないではないか、特に昨年オーストリーのドルフス首相暗殺事件の如きは第二世界大戰惹起の危機一髪の情勢に直面したのである、當時伊首相ムッソリーニ氏の如き、歐洲の國際情勢は世界大戰直前と同樣である、それを未然に防いだのはイタリー軍が國境に進出警戒したからである、イタリーは明日の戰爭よりも今日の戰爭を準備しなければならぬと喝破した程である、この事件當時のフランスの狼狽は勿論、英露にも異常な衝撃を與へた、斯くの如く歐洲は不安である

◇然らば東洋は平安かといふに斷じて然らず、日本の國際聯盟脫退實現、これに伴ふ南洋委任統治問題の派生、海軍々縮本會議、華府條約廢棄の影響等國際的に重大なる一歩を踏み出すのである、即ち三五、六年の危機は東洋にも西洋にもある、これは天が世界に與へたる試練で、之によく打克の覺悟が必要である、過去三年に亘る日滿兩國の協力奮鬪の結果は滿洲國の健全なる發展を招來し平和の基礎を築いた

◇滿洲國の現勢を見るに、世界の獨立國七十一ケ國中面積は第五位、人口は第九位であり、聯盟加盟國五十八ケ國中滿洲國より廣い面積を有するものは四ケ國人口の多いのは八ケ國に過ぎぬ事變當時列國は勿論日滿兩國も滿洲國の治安維持を憂ひたのであるが、當時二十萬を超えた匪賊は一昨年は十萬となり、昨年は五萬、昨今は四萬に減じ、之が討伐には愼重なる態度を以て臨み、他面招撫に努力し日に平安に趨きつゝあり、鐵道、港灣水運等の施設は滿鐵の委任經營によつて着々整備し、かくて日本海は今や名實共に日本の湖水化し、日滿主要都市は電話を以て用務を辨じ、新京、東京間列車は五十時間にて到達し得る

◇又滿洲國の幣制財政の確立は最も困難視されたのであるが、全く例外的、奇蹟的に順調に進捗し舊軍閥時代の通貨は昨年八月までに九分九厘まで回收し得、又豫算は借入金無くして編成し得る狀態である、之は滿洲國が顯著なる輸出國であつたにも因るが日滿兩國の熱心なる協力工作の賜ものに外ならぬ

◇斯かる情勢になるに拘はらず、歐米人は世界の危機の中心が滿洲に在るといふ、何處に危機があり、何處に不安があるかと反問したい、昨年來滿せる英產業視察團バーンビー卿一行の報告書において滿洲國は英の資本と商品の供給に關し、日滿官憲から希望文書を寄せた、今や滿洲國治安恢復し、交通、衞生、教育等施設完備し、我等に良好なる市場を提供し得るであらうといひリットン報告とは雲泥の差である、之は虚心坦懷に實狀を視察した結果で、將來この滿洲國の現況を世界人に知らしめ、その期待を裏切らぬやう日滿兩國は一層の努力を必要とする。

◇而してこの目的を達成するには如何にすべきか、即ち日滿兩國は本年何を爲すべきか、それは既定の國策を遂行するにある、即ち滿洲國の獨立を尊重し、その發展を助成しなければならぬ、併もこの第一線の責任は私であり、日滿兩國民の全幅の支持を切望する、而して其方法は日滿兩國の精神的結合と經濟統制の强化である、即ち日本人は對滿政策は天の命ずる正義的道義的のものであることを認識し、滿洲國人は日本の此態度を疑つてはならぬ、而して經濟的提携には日本各界の支持を必要とする。

◇私は今官邸の一隅から忠靈塔を拜しつゝ放送してゐるが、この忠靈塔の地下には事變以來尊き犧牲となつた三千有餘の英靈が眠つてゐる、この勇士の如き義勇奉公の信念を以てすれば、三五六年の危機を突破することは決して難事ではない、又新京市中に飜へる日の丸の國旗の下では滿洲國の少年少女が君ケ代を歌ひ五色旗の下では日本の小國民が滿洲國歌を歌つてゐる、この情景こそ日滿兩國の融和を表徴するもので眞に欣快に堪へぬ、これこそ日滿眞の握手の芽生えといふべきである。

大連の新年遙拜式（大連神社にて）

日支關係論

橘樸

一

並で私は日支關係を日本の大陸政策の一部分として取扱つて見たい、先づ日本の大陸政策の對象を便宜上

一、滿洲國内の漢民族及び滿洲民族
二、滿洲國内及び其の他の廣大な地域に散在する蒙古民族
三、支那國内に居住する漢民族

の三部に分ち、そして日本は如何なる關係においてそれ等諸民族を把握すべきであるかといふことを考へて見る。すると前掲の三部はそれぞれ社會發達の段階を異にするため、日本との關係も亦隨つてその樣式を異にせざるを得ない。即ち第一のものに對しては、日本はその地主層と聯携すべきであり又滿洲事變以來現實に聯携して居る。日本側の誤謬から時々土着地主層を動搖させるやうなこともあ[illegible]の聯携の安定性を破壞するものではないと思ふ。

第二のものに對しては、日本はまだ適當な相手方を物色し得てゐないやうである。抑々蒙古社會は遊牧家畜群に經濟的基礎をおくところの沈滯的封建社會である。そしてこの沈滯せる民族は、外部から適當な庇護と刺戟とを與へざる限り唯衰亡の外なき狀態にある。即ち蒙古民族の解放であるが、このことは少なくとも滿洲國内に關するかぎり、日本の努力で容易に解決さるべき問題であると思ふ。而して蒙古民族解放の要諦は第一に漢民族の政治的經濟的壓迫からの解放、第二に封建領主たる王古喇嘛からの牧民即ち遊牧的生產者たる農奴の解放の二事に盡きる。

二

幸ひ關東軍當局は建國以來第一[illegible]

昨年十二月一日の蒙政改革を一段落として今や全民族の期待がこれにかゝつてゐる。然るに第二の解放運動に至つては、それが全問題の中心であるにも拘らず、なほその一般方針さへ立つたといふことを聞かない。私見によればこれは一つの階級問題である。即ち封建貴族に對する身分制的隸從關係から農奴を解放し、それによつて生產者たる農奴の經濟活動に刺戟を與へることである。

而してこの二重の解放運動を進展せしむるための蒙古民族内部の原動力は對立階級たる貴族又は農奴にあらずして第三者たる少數の青年知識分子に求むる外ないであらう。日本と蒙古民族との連鎖も亦當然こゝにあらねばならぬ。故に蒙古解放運動の第一着手は優秀なる蒙古青年を選拔してこれに適[illegible]

かゝる意圖と用意との下に行はれる蒙古解放運動こそ、南京政府は勿論蘇聯のそれをも遙かに超越して蒙民大衆の信頼を博するに足るものだと思ふ。

三

滿洲にはまだ土地に餘裕があるから日本は地主と聯携することによりて比較的容易に且つ有効にその宿願を果すことが出來たが、この結合樣式は人口の過剩する支那に適しない。このことは地主階級の政權たる軍閥が已に支那の中心區域において支配的勢力たる地位を喪失したといふ事實からでも證明されると思ふ。私はこの見地から今なほ北支那又は西南方面の地方軍閥に望みを繋ぐ人々に左袒することが出來ない。かつて今日支那の支配的勢力はブルジョアジー及びプロレタリア政權に限られるのであるが、現在の日本としては後者は論外だから、問題は自らブルジョア政權に限定されることになる。但しブルジョアにせよプロレタリアにせよ、支那では共に最後の勝利者たることを得ず、新興の第三勢力たる農民政權に席を讓らねば[illegible]はこの問題に觸れないこととする。

四

ブルジョア政權は申すまでもなく南京政府であつて、その經濟的基礎が上海資本家階級にあることは周知の事實である。嘗て支那のブルジョアジーは所謂浙江閥及び廣東閥の二大陣營に分れてゐたが、この對立は後者が一方に南京政府との關聯において浙江閥の中から華僑資本が世界の恐慌の煽りを喰つて凋落したゝめに、今日では最早解消されて銀行資本を中心とする單一組織體となつてゐる。そしてこの銀行資本は一面において凡ゆる種類の企業の上にその支配を伸ばすと共に、地域的には山西及び廣西を除いた全支那の財政金融界にその覇權を振ひつゝある。しかもその上に山西モンロー主義の擁壘とされる上海銀行資本への降服は今や既定の事實となつて居る。

抑々支那資本主義はそれの餘りに遲き發生の故に初めから榮養不良のうちに夭死する運命を負はさ[illegible]

今日支那を支配する勢力の持主がブルジョアジーであること、隨つて吾人は好むと好まざるとに論なく、唯これと聯携しそれの統治を通じてのみ支那の國民大衆を把握し得るのだといふことを知らねばならぬ。この支那ブルジョアジーの全國的覇權に對しては軍閥は勿論、新興のプロレタリアートでも局部的抗爭以外では歯が立たない。かゝる情勢は尚ほ當分持續するものと見ねばなるまい。

五

吾人の支那政策の唯一の相手方がその國のブルジョアジーであることは前記の如くであるが、それは生憎にも支那國民主義運動の中堅であり、隨つて又排日運動の原動力でもある。これは日本が多年苦しんで來たところで、支那資本家及その政權を相手とする限り兩者の接近は望み難いといふ悲觀說の行はれる所以もこゝにあると思ふ。しかしこの考へ方は公式に拘泥して支那資本家階級の特異な構成を顧みないものである。

そもそも支那の新興ブルジョアジーの指導權は先進諸國が嘗て示[illegible]すして銀行資本である。而して銀行資本のこの優越の原因は專らそれと南京政府との高利取引——公債引受及政治借款の供給——にあるので、關心は自然に經濟問題よりも寧ろ政治問題に向ふことになる。資本家階級の指導者の態度がかくの如くである以上、それを原動力とする國民運動乃至排日運動が、著るしく機會主義的色彩を帶び、隨つて眞劍でも深刻でもあり得ないのは當然であらう。且つ日本は如何なる第三國が提供し得るよりも少なからぬ政治的及經濟的利益を支那銀行資本に向つて寄與し得るものであるから、兩國關係には一般の見解と反對に相當樂觀の餘地があるといふことはならぬ。

六

唯問題は第三國との關係である。プロレタリア政權の支持者たる蘇聯は姑く措き、日本と支那ブルジョアジーを挾んで全面的の利害相反關係に立つものはアメリカである。今日支那の政治家中資本家の多くが日本を排斥してアメリ[illegible]は疑ひもなき事實である。併しこの事實を重視することは誤りである。何となれば現時の國際情勢は半植民地國家がその政策又は好惡に任せて自主的に行動する餘地は殆ど殘されて居ないからである。即ち日本がその欲する通りに日支關係を規定することは必ずしも不可能ではない。併しそのためには先づ競爭者たる第三國の影響から支那を引放さねばならぬ。それは勿論日本の責任であり、日本はこの責任を果すために新らしい海軍縮減方則を定立して、勇敢にこれを英米に押つけやうと努力しつゝある。この努力が完全に酬いられた時に於て日支關係は初めて安定し、而して日本の大陸政策はこゝに一段落を劃することゝなるのであるが、併しそれは勿論一時に達成せらるべき性質のものではない。須らく氣を長く且つ濶く試みを支那に對してはそれが國際的責任能力に缺くるところある事實に鑑み、特に寬容な態度でこれに臨むことが必要である。かくて一見至難なる日支關係も步一步好轉し[illegible]

通郵問題解決から各國民の利便多大

支那から歐洲への郵便物は 四週間が二週間に

【新京電話】滿支通郵問題解決により兩國は勿論、世界各國民衆の受ける便益は多大なものであるが九年七月、中國側の對滿洲國郵便封鎖の實情をみるに封鎖聲明以來一週間もたゝぬ間に葉書、書狀の通常郵便物は

事實上 滿洲國と中國との間に遞送された、即ち滿洲國切手を貼付した郵便物が大連を經由して中國へ配達されたものであるが、當初は附屬地の日本郵便局扱のものだけを中國側では取扱つた又中國から滿洲國附屬地外奥地に遞送される分も受付られ、是等をとき苦しい言譯をしながらも事實郵便物遞送は政治問題と異り、兩國民衆相互の生活上の必要から一日も忽せに出來ぬため通常郵便物の遞送だけは行はれてゐたのである

然しながら滿洲國から中國行の郵便物も中國郵便料金の封書五錢、葉書二錢五厘の

不足稅 をとつて配達してゐたもので又郵便局長によつては嚴格にやつて受付けないところもあつた、たとへば北平などはなかく嚴格で是を受付けないため不便が多かつた、第一この通郵問題解決のため九年九月二十八日以來北平に在つた日本側委員が通信解決のため必要な文書の往復に新京との通信杜絕のため弱つたといふ笑話さへある、中國が郵便物を滿洲國を通さぬため

歐洲行 の郵便物が普通二週間で行くべきものが天津、上海、長崎、敦賀、浦鹽と遠廻りするため四週間も費してゐた、又上海から印度洋を廻れば倍以上の五週間もかゝり、毎日五十行囊以上の歐洲行郵便物が今までこの不便を忍んでゐたものだが通郵問題解決によつてこれ等が山海關を經て滿洲國を通過、シベリヤを經て送られゝば二週間に短縮され在支外人や貿易關係者等は大助かりだと喜んでゐる

岩佐司令官の輔佐官

矢野少將を任命

【新京電話】在滿機構實施以來岩佐關東軍憲兵司令官の職務は本職の外駐滿大使館警務部長、關東局警務部長を兼任し更に北滿路警に對する指揮權及び滿洲國警察官に對する指導權を把握し全滿警務機關統制上極めて多忙な職務にあり憲兵隊本來の職責遂行上より輔佐官を必要とするに至つたので、陸軍省と關東軍協議の上步兵第八旅團長の矢野機少將が關東軍憲兵司令部附に任命され新春早々赴任の途につく筈である

矢野少將は明治二十年三月二十七日東京に生れ當年四十七歲の働き盛り、士官學校第十八期生で明治三十九年步兵少尉、累進して昭和四年大佐、同九年三月少將に進み同時に步兵第八旅團長に任ぜられた士官學校陸軍大學とも優秀な成績を以て卒業した頭腦明晰な人である

（寫眞は矢野少將）

日下司政部長

三日はとで赴任

關東局司政部長に就任した日下辰太氏は三日午前十時旅順驛發車で一應大連に赴き、更に同日正午發はとにて單身新京に赴任の豫定

西南問題協議

蔣氏以下杭州で

【南京三十一日發國通】鄉里奉化に靜養中だつた蔣介石氏は廿九日杭州に到り三十日朝來孔祥熙、王寵惠、廣東財政廳長區芳浦、南昌行營秘書長楊永泰等と西南問題につき協議した、孔祥熙は王寵惠のヘーグ歸任後王に代つて對西南折衝に當る筈で今回の杭州における會議の結果を齎して王寵惠と香港まで同行胡漢民と會見することゝなつた

たこま丸 三日午後一時大連入港豫定

人事

▲稻川利一氏（新京驛長）二日正午發はとで歸京
▲小川順之助氏（大連市長）二日入港ばいかる丸にて歸連
▲吉田豐彥氏（電業會社社長）同上
▲西川國一氏（保護者聯合會代表）同上
▲西山左内氏（電々會社監查役）嚴父逝去の報に接し二日出帆うらる丸にて鄉里東京へ
▲土肥原賢二氏（奉天特務機關長）二日午後八時四十分着列車で來連

哭くな青春（83）

三上於菟吉
吉邨二郎畫

野山の右側を、元氣よく歩むのだつた。

野山は、やたらに、いぢらしくなつた。この上は、この娘に、あたゝかいものを、たらふく喰べさせてやりたい——さうした不幸な娘に久しぶりで、めぐり合つた親身の小父でもあるやうな、しんみりした氣持になつて、彼女を、裏通りの喫物屋に連れ込まうと、手頃の店をさがすのだつた。

「一體、君は、何か喰べたいのだい？ 洋食か、それとも日本食かい？」

食傷新道のやうに、小さな喫物屋が、軒を並べた横丁を歩きながら、彼は訊ねた。けい子は、子供らしく、笑つた。

「なんでも、いゝのよ。あなたが喰べさして下さるものなら、なんでも喰べるわ」

昨夜、ほんの僅か、喰べものに[illegible]

事務所て（その十二）

けい子は、突然、あまり、きやびやかな店内に連れ込まれて、何時までも、うじくしてゐるのだつたが、

「何も遠慮する事は、ちつともないよ。自分で似合ふと思ふやうなのを、どれでも、取るがいゝ」

と、野山が、幾らか痛嫌を起したが、むしろ、こづくやうな調子で言ふので、たうとう決心したやうに、

「これを戴いて、いゝかしら？」

と、厚毛の鳩羽色の外套に、遠慮ぶかげに、痩せた指先を觸れるのだつた。

女店員は、妙に億劫さうに、おろたるい態度で、けい子の後ろから、その外套をかけて、寸法を合せて見るのだつた。

「大抵、このまゝで、およろしさうでございますけど——」

女店員は、さう、傍らから言つた。

けい子は、銀色の、素晴らしい彫刻飾りのついた、天井に届きさうな、大きな姿見に、新しいコートを着た姿を映して見て、これまでの恥らひや臆病さを忘れたやうに、わが姿に、うつとりと見入るのだつた。

「少し、ゆる過ぎるか知れないけれど、レディメイドとしては上出來だ」

と、野山は、言つた。

「そして、値段は？」

女店員は、うちの店にしては一番安物だといふやうな輕蔑を、語調に含めて、

「襟に値札がついて居りますが——」

野山は、覗き込んだ。そして、内かくしをさぐつて、紙入れを取り出すと、十圓紙幣を七八枚、臺の上に置いた。

二人は、夕風が、刺すやうに吹きさらしてゐる鋪道に出た。

しかし、けい子は、もう、寒さうではなかつた。彼女は、胸を張り、肩をそびやかすやうにして、しつかりした足どりで、[illegible]

有りついたゞけでけふ一日、何もお腹に入れてゐない、このストリート・ガールも、やはり齡頃の小娘だつた。幾日、纏ひつゞけてゐるやうな、素晴らしい外套を、買つて貰つた喜びのために、は、凡ての肉體的の苦痛を忘れることが出來たのだつた。

野山は、彼女を、水だけで名高い、小粋な店に導いた。

それは、時々、彼が友達と會食に來る家で、女中たちは、大抵は顏馴染だつた。

「おや、まあ、隨分しばらくでしたわね。この頃は、すつかり宗旨をお變へになつて、カッフエばかり步いてゐらつしやるなんて、——小山さんから伺つて、みんなで、お怨みしてゐたところですよ」

など、一番先きに出迎へた年增女中は、細長い瞳を、しやくるやうにして笑ふのだつた。

彼女の目は、けい子を、一瞥で觀察してゐた。

——何處で拾つて來た女給だらう？

女中は、心の中で、そんな風に疑つてゐるやうに思はれた。

日滿交誼もいや固く
全滿に非常時迎春譜

【新京】國都新京に訪れた康德二年の元旦は靜寂の中にも希望に滿ち、初日に惠まれ輝きは先づ最高零下十度四と云ふ寒さにもめげず新京神社、忠靈塔は朝まだきより初詣の參拜をなす市民の群で一杯、午前七時より神社に於いては國旗掲揚式が行はれ早曉から境內では熱誠な市民等に依つて日本帝國の萬歳が絶叫され、一方新任の南軍司令官は初春を迎へ先づ午前九時三十分軍司令部前廣場において軍隊職員と共に祝賀式に參列、西尾參謀長の祝辭を受けた後大使の發聲にて東天を拜し　兩陛下の萬歳を三唱して祝盃が擧げられ、終つて十一時半宮廷府に參內皇帝に拜謁賀詞を奏上零時三十分より新京公會堂における吉例の新年互禮會において一千餘名の市民によつて日滿兩國の萬歳が叫ばれ日滿融和の第一聲が揚げられた

國務院においては午前九時より會議室にて國旗敬禮式の後鄭國務總理の新年の辭があり終つて互禮會に移り遠藤總務廳長の發聲にて滿洲帝國の萬歳が叫ばれかくて新京の元旦は日滿兩國民なごやかな融和の裡に靜に閉ぢた

大連

空には一點の雲影さへもなく平和な光りの裡に一九三五年の新春は廻つて來た、大晦日の深夜までごつた返す有樣だつた浪速町の通りも一夜明け放たれた元日の朝はほろ醉機嫌の年始廻り紳士淑女達が晴れやかな禮服に包まれつゝ三々五々高らかに談笑しながら通り過ぎるばかり、大晦日の疲れに商店街は一日中深く眠り續けてゐる、固く閉された各デパートのショーウインドには勅題に因んだ池邊の鶴が大きくかざられて平和な春を物語つてゐるが、今年のシンボル猪だけは非常時を驀進する日本の今日の姿そのものゝやうに描き出されてゐる、元日は大連神社だけが靜肅な街に引きかへてひとり大繁昌、市役所主催の拜賀式も行はれて約一千名の市民が參加したが夕方までには約五萬人の參拜者があつた、大連驛に乘降した客は平日よりは少く乘車が一千百三十七名、降車一千八百六十六名、共に平日よりは三百名位少かつた…毎年正月頃は張りつめた鏡ケ池の水がスケーター達にスポーツの正月を樂しませるのだが今年ばかりは例年にない暖かさのためにとうとう水が張らず池のほとりもいつになく淋しい……

旅順

昭和新春十年を迎へた旅順は前日の寒威降雪も歇み晴天明朗旭光燦として靈地に沿ぐ午前八時からは在旅海軍部隊を始め第一、第二兩小學校の遙拜式、關東州廳初の拜賀式は目出度擧行され、午前十一時五十分からは昭和園に於ける官民合同の名刺交換會及び旅順開城三十周年記念祝賀會が擧行され米岡市長の祝辭、君が代の奉唱、大場長官發聲にて兩陛下の萬歳を三唱祝盃を擧げて聖代を壽いだ

奉天

麗しく暮れた奉天も新春はからりと晴れて寒氣も和らぎ絶好の正月日和、午前零時の除夜の鐘と共に奉天神社の社頭は市民の參拜者引きも切らず黎明と共にますます人足を増し、露店商人軒を並べ車馬絡繹參拜者でごつた返す盛況、九時より歳旦祭執行、日滿官民多數參列、新春を壽ぎ、聖壽の萬歳を祈願、十時より十一時にかけ各官廳、會社、銀行、學校ではそれぞれ新年祝賀の式を擧げ、正午よりは奉天高女講堂において新年互禮會を開催、先づ關屋地方事務所長の開會の辭に次いで蜂谷總領事祝辭を兼ねて非常時突破國民の團結を説き、祝宴に入り互に盃を交して新春を壽ぎ、宴酣となるや三毛〇〇隊長の發聲で皇室の萬歳を三唱同零時四十分散會したが市中は快晴に惠まれて人足繁く年賀回禮者の千鳥足に和かな正月氣分横溢第一日を終へた

ハルビン

昭和十年を迎へたハルビン市民は日滿露人の別なく國旗を掲げ國際都市の面影を發揮してゐる、朝八時半カラリと晴れた碧空を數臺の軍用機が零下二十五度の酷寒を冒して市の上空を數回祝賀飛行をなし傳單を撒布した、昭和九年が經濟的にも治安工作上にも極めて多事だつただけに本年の正月は殊更に意義深いものがある、就中北滿の邦人は皇太子殿下の御誕生、邦人人口の増加、經濟界好轉の見通し等のため輝かしい氣持で昭和十年を迎へた、この日在哈各機關の行事は總領事館、若山部隊司令部濱江省公署、市公署は朝十時から一同參集拜賀式を擧行、祝盃を擧げ、日本小學校は九時半、ハルビン高女は九時四十分、普通學校は十時半から夫々遙拜式及び國旗掲揚式を擧行した、また民會公會堂では午後一時から名刺交換會に續いて祝宴を張り、皇室の萬歳を三唱して散會した

……書初め……

チチハル

チチハルの元旦は粉雪の祝福一色に彩られて和やかに明けはなれ、午前七時神社社頭に零下二十度の朔風を受けて國旗掲揚式を擧行、九時の元旦祭に續いて十時半より領事館における御眞影自由拜賀、小學校の四方拜拜賀式あり、十一時チチハルホテルにおける官民合同の互禮會に五千の在滿邦人は乾盃をもつて非常時に起つ決意を固め、午後零時半よりは龍沙公園における日滿合同の互禮會に提携親善を誓つた

吉林

光輝と希望に滿ちた昭和十年一月一日の朝はほのぼのと明けた、兩帝國の國交は愈々親密を加へて行く、この日早朝より空高く澄み渡りて風なごやかに、旭光燦と輝いて平和に明けた吉林省城は正に陽春そのまゝの氣分である、先づ午前八時半吉林修養團では吉林神社建設最初の參詣をなし、これに次いで總領事館、皇軍各部隊、憲兵隊、各小學校、各機關では午前九時より新春を壽いで莊嚴なる拜賀式を擧行、同十一時半より吉林館にて名刺交換會等あり到る所今日のよき日を心から祝福して正月氣分横溢する裡に愈々非常時第二年の力強い第一歩をスタートした

營口

營口の正月はまだほの暗い中から日章旗が掲げられ、軒に樹てた門松と各戸に引廻す幔幕の定紋も朝風に波を打たせつゝ皆一樣に迎春の歡びが溢れてゐる、午前九時より領事館の拜賀式に列する人々は禮服紋服衣紋正して皇室の萬歳を壽ぎ奉り、次いで小學校の拜賀式營口神社の歳旦祭、正午は小學校講堂における市民新年互禮會に參する人六百有餘名、未曾有の盛況で後はほろ醉ひ氣分の市民達は聊意に家路についた、斯くして平和の營口の元旦は靜かだ

錦縣

錦縣の元旦は例年になく暖かく晴朗である、伊田〇〇部隊司令部を始め各部隊、領事館は十時小學校講堂に參集、夫々遙拜式を擧行し國運の隆昌と皇室の御榮えを祈り、また官民合同の新年互禮會は同十一時より小學校講堂において開催參會者四百名、伊田〇〇部隊長の發聲で天皇陛下萬歳、後藤領事の發聲で滿洲帝國萬歳を各三唱し冷酒を酌んで正午散會した

清津

淸津の元旦は早朝すこし雪降りであつたが晝頃からは霽れて溫度十度にのぼり當地方稀に見る溫暖の元日であつた、正午から公會堂において市民の新年互禮會あり、暖氣のため市中はにぎやかであつた

熊岳城

熊岳城新年の遙拜式は日滿人合同して午前十時より小學校講堂でいと嚴かに擧行されたが、遙拜式に先だつて同校庭で兒童並に日滿人多數參集し、遙か東天に向ひ大國旗掲揚式を行つた、十一時より市民俱樂部において一般市民の互禮會を開いたが稀に見る盛會を極め十一時半萬歳裡に散會した

物々しい扮裝で猛獸狩の壯途へ
各團員、續々赴京す

一九三五年年頭の壯擧、本社主催北滿の猛獸狩はいよいよ三日新京において團員一同勢揃ひをなし壯途に上る豫定であつて、各地から參加する團員は正月の屠蘇もそこそこのけて準備萬端を整へ勇躍して三々五々出發地點の新京に向つたが中にも大連からの參加者は早くも一日夜數名が出發し、二日の「あじあ」及び「はと」を最後に孰も物々しい扮裝に覺悟の程を偲ばせて壯途に就いたが、團長長谷部昭伍少將および本社高橋事業部長、島田記者、佐內寫眞班員等は二日午前九時發のあじあで新京に向つた

"新機構無視に非ず上京が是と信じた"
小川市長、二日大連着

工業學校豫算復活運動のため上京中であつた小川大連市長は保護者會代表西川國一氏と共に二日入港のばいかる丸で歸連したが語る

自分の今度の上京について一部で色々批難があるやうだが自分としては大連市のため最も是なりと信じて上京したのだ、工業學校設置の問題は大連市のみでなく全滿の邦人に必要な問題だと考へてゐるが、これが昨年否決の運命に遭ひ今年こそ大丈夫と思つてゐたところ、またく大藏省での運命危ふしとの情報を得たので急遽上京と決めたのだ、二十六日午前七時東京着と共に大藏省に

猛運動 を開始し、幸ひ知人關係も良かつたので否決と決つてゐたものを漸く午前中に再考とまで漕付け、その後主計局で審議が續行されたうへその日午後七時に復活が認められたわけだ、問題が時間的に早く解決したのでこれを簡單に解釋する人もあるが、自分は豫想以上にこれは難かしいと考へて全力をここれに注いだのだ、自分への批難として新機構を通さずにやることが惡いとかいふ話もあるやうだが、自分も役人生活は永く、通すべき筋合は充分に心得てをり決して新機構を無視するやうなことは無い、唯今度の問題は昨年來關東廳と連絡協調を保つてやつてゐることであるので今度も上京したやうなわけで、かつ今年實現出來れば當分駄目だと思つたのであんなに上京を急いだのだ

新全權 大使南大將に挨拶出來なかつたのも、挨拶をしてからではこの問題に間に合はなかつたからなのだ、長岡總長に東京で會つたのも決して現地機關を無視してのことでなく、今後つて現地で案が出來れば君の方でやつて貰ふことになるのだからよろしくと挨拶したまでだ、市政を放棄して上京するなど餘計なことだといはれる筋もあるが、市政の問題はこちらに適當なものが出來てからやるべきだと考へてゐた、とに角自分としては新機構の組織は充分に承知してをり、踏むべき道を外すやうなことはなく了解の手續をとる筈で、この問題にしろ將來の問題にしろ新機構を無視するやうなことは絶對にない、誤解されてゐる向に對しても自分からよく話をすれば簡單に了解がつくと考へてゐる

市長の努力で目的を達成
西川氏語る

保護者聯合會代表として小川市長と共に上京運動中であつた西川國一氏は、二日埠頭に上陸すると共に出迎への保護者聯合會幹事一同に約三十分間經過報告をなしたが語る

上京の時は既に駄目となつてゐたのだ、その理由は水道のやうな大きな豫算を認めてやつたからだといふことであり、またそれ程必要なら地方費か市費でやれといふことであつたが、市長は知人關係を辿つてこれに猛運動を起し中村前局長等の盡力もあり先方もこちらの熱意に動かされ幸ひ御承知のやうな好結果となつた、一部ではこれ位のことで市長が上京することはないとの意見もあるやうだが、知人關係も多い市長だつたればこそあれだけの成功が收められたので、病身を顧みず奮鬪された市長に對し自分達は衷心これに感謝してゐる

滿鐵の拜賀式

滿鐵では一日午前十時二十分から社員俱樂部大食堂で新年拜賀式を擧行、定刻鐵道工場バンドの奏樂裡に一同入場君ケ代を合唱し、總裁式辭後互に祝杯を擧げ最後に滿鐵の歌を合唱十一時閉式し、引續き滿洲館に於いて恒例の新年祝宴開かれ正副總裁各理事以下主なる社員參集、市中側からも各界の有力者交々來會し午後二時過ぎ散會したが本年は特に盛會であつた

本社の年賀式

本社は元旦午前十時半から三階講堂に於いて年賀式を擧行、村田社長以下日本人社員全部參集、細野主幹の挨拶に次いで一同國歌を齊唱し村田社長より一場の年頭所感の辭があり、米野編輯局長の發聲で兩陛下の萬歳を奉唱し、更に滿洲日報萬歳を三唱して一同祝盃を擧げ十一時半閉會した

上海見學團元氣で上陸

【上海特電二日發】ツーリスト・ビューロー主催、大阪後援、上海觀光團を乘せた青島丸は元日午後二時新春の陽光を浴びて輝かに國際都市上海に到着、一行百名は元氣で上陸した

滿洲ラヂオ普及會社設立

今回滿洲において ラヂオ受信機の販賣普及を目的として滿洲ラヂオ普及株式會社の創立を見るに至つた、放送事業の經營者たる電々會社は新設會社に對しラヂオ聽取申込の取次並に聽取料の集金を委託するもので、電々會社は新會社が滿洲における他の同業社と提携して堅實な發展を遂げ以て滿洲における放送事業の普及發達に寄與せんとを期待するものである

菊池家婚姻

在旅菊池幸吉氏長男稔氏、永尾善作氏長女マス子孃は今回石原次郎、飯島平治兩氏夫妻の媒妁に依り三十日旅順出雲大社において華燭の典を擧げ同夜五時から旅順偕行社において披露宴を開催した

埠頭に溺死體

三十一日午前十時埠頭構內第四埠頭埋立事業中の波打際に滿人の溺死體が打揚げられてゐるを發見、水上署員が檢證したが死體は帽子に手袋を穿ち一見二十二、三歳の店員風で何等所持品もなく身元不明、覺悟の自殺でないかと思はれる

天氣豫報

(三日) 北西の風曇り一時晴

各地溫度 (二日午前十一時)

大連	零度	奉天	零下九
旅順	二	新京	不明
營口	零下八	新義州	零下
哈爾濱	零下一二		

トーキー時代へ
躍進するスター
三五年の榮冠誰に(下)

女優では松竹蒲田の田中絹代、岡田嘉子、飯田蝶子等は既にトーキー俳優として第一線に置かれるもの、川崎弘子は誘拐事件以來人氣は大分下つたが三五年度は更生し大スターとして完成された活躍をするであらうと思はれる、新進では「春江の結婚」に拔擢された三宅邦子と「金環蝕」にデビューした桑野通子が最も有望、下加茂では相變らず飯塚敏子が最高で、時代劇に轉向した光川京子、ミス大阪堀江清子等に待望できやう、日活では水久保澄子、黒田記代、中野かほる、桂珠子等他社から引拔いたスター連中以外には有望なものは殆ど見當らないが、日活としては深水藤子、嵯峨みや子を賣るつもりらしい、新興では志賀曉子といふ素晴らしいスターを掘出してゐる、「霧笛」以來の彼女の活躍は

PCL　竹久千惠子

三五年度トーキースターとして充分期待されるものがある、日活から入社した市川春代、寶塚から入つた露立のぼるの二人は新興女優としては珍しい程の飛躍をするであらう、大都では琴路美津子唯一人に待望、寧ろ獨立プロたるPCLの千葉早智子、竹久千惠子、協同映畫の逢初夢子、第一映畫の山田五十鈴等の方にトーキー女優として最も有望性がある。

◇

男優では蒲田は藤井貢の黄金時代となるであらう、「會社員閣下」でデビューした近衛敏郎も望ましい青年である、下加茂では坂東好太郎の躍進が目立つ外さり立てて期待されるものはない、日活では現代劇部では皆無、時代劇部は大河內の一人舞臺、僅かに下加茂から入社した小林重四郎が何の程度活躍するかに興味が持てる、新興は市川朝太郎といふ時代劇の新進が「忠次賣り出す」でデビューする、果して賣り出すか何うかは今年度の興味だ、小杉勇、月形龍之介の既成二大スターもトーキーでは無聲程の演技が出來まい、獨立プロでは協映の岡、江川は蒲田仕込みで試驗ずみ、第一の傳明、中野英治も大した期待は持てない、寧ろ新進夏川大二郎が一番賣り出すことであらう、千惠藏は既に發聲映畫を數本撮つてゐるが自分の聲に自信が持てぬらしい、右太、阪妻、寬壽郎も今年からは發聲を撮るが右太は既に「忠臣藏」「天一坊と伊賀介」でその貫祿を示してゐるから阪妻と寬壽郎の第一聲に興味が持てやう。

POL　千葉早智子

初荷

けふは初荷、朝から近年にない初荷日和だ、景氣のいゝ小旗をはためかせ乍らトラックに滿載された初荷が麗かな街を行く、程よく廻つたお神酒に兩頰をほんのり染めた哥兄達の鉢卷も猪の年らしく威勢のいゝ姿だ、國際運輸だけは今年から二日には初荷を出さず四日に出す事に變更した【寫眞は初荷】

月	寶石
1	アレキ
2	アメジスト
3	ブリユスピネル
4	ホワイトジルコン
5	エメラダ
6	眞珠
7	ルビー
8	ムーンストーン
9	サフイア
10	オパール
11	トツパース
12	ジルコン

奉天鐵西工業地實相（下）

白圖上、約百萬坪の赤鉛筆の魅力
餘りに遲い建設行進

この秋の入りのことであるが、急に寒くなつたことがあつて、該地區に迷ひ込んだと覺しき支那服裝の男が路傍に凍死體となつて横はつて居たのが發見された、それは一體ならず三體もあつたさうであるが、それが十二月の末記者が該地區視察を終りて本稿を草するまで取片付けられて居なかつた、若し一隅をあげて三隅を知ることが出來るものとすれば、かういふ法律的にも社會的にも康寧を保障されない地區に外國資本が喜んで若くは進んで投下されるかどうか問はずして明らかなことではないか、尤も八月十七日附滿洲國會社資本外國貨幣建許可の勅令が公布され、本位貨を異にする滿洲に於て日本金圓資本が活躍するのに障礙が撤去されたわけであるけれども、この勅令を完全に享樂するためには飽まで滿洲國法下の會社組織でなくてはならない、日本資本家達は當初より日本商法の規制を期待して居た、この期待に對する處遇がかくの通り全く豫想外であつた事實により先づ不平の聲があつた、われ等はパンを欲したのだ、然るに與へられたものは石ではなかつたかといふのである、まさか滿洲國法は石に相當するわけでもあるまいが、資本家乃至企業者の心理はまた別物であるから事實さう信じたかも知れず、少くもこの期待外れを何等かの口實に使へば使ふことが出來た、そこで不平が起つたのである。

●●

資本家達の不平はそれだけでない、まだ外に澤山ある、左に滿洲工業會が鐵西會の陳情を取り上げて當路に紹介陳情をなした要項を掲げる、鐵西會とは工業地區現在者二十四社を以て去る十月創立されたもの、滿洲工業會もまた相次いで創立されたもので宛がらこの兩者は鐵西工業地區に關する前述の不平發表機關として生れ出たやうな外貌をもつてゐる、さてその陳情要旨は

一、課税の問題にして現狀の行政管轄にて工業地區は先づ第一にこれが賦課を見るべく現に市政公署に於て工業地區特別税立案中なりと聞く、これが實施の曉は附屬地との課税均衡を失するであらう

二、奉天工業土地會社が未だ正式の法人たらざるため工業地區に於ては正式に建物保存の登記を受くること能はず延いてはこれを金融化する上に支障あり

三、工場を設置せんとする法人にその設立登記を滿洲國法人たらしむべく慫慂さるゝごとき法人にして日本商法により設立登記をなさんとするに對し、これを認むるに非ざれば資本進出の上に一大障碍あり

といふのである、但し有りやうをいへば「資本進出の上に一大障碍」があるかどうか、將來を見透しての觀察としては、たやすく首肯し難い論斷であるけれども、少くも現狀を以て推移するとすればかういへぬことはない、而も右三項に盛られたる不平を一層刺戟したるものは、本年十月施行せられたる統税賦課問題である、附屬地から工業地區へ工事材料を搬入する時に、滿洲國は國內税を賦課する通過税としてペイント一袋につき十八錢を徴せられたのである、同樣に搬出されるものは出產税を課せられるといふ通達であつた、狼狽したのは資本家達だ、最も痛感したのは工事請負業者等だ、滿洲國側に對する抗議も陳情も一切効なし、附屬地からの道路が一本（他は未完成）なところから滿洲國税吏がこゝを扼してビシ〳〵工事材料に課税した、これにより資本家達は既に狼狽を始めこの事實から類推して投下資本の地位の悲觀すべきものたるに想着し、その結果は到頭「資本進出の上に一大障碍」と疾呼するに至つたのである、尤もこの課税問題は十一月二十二日實施の新關税法によりて解消した、その趣旨中に「內國税を賦課する輸入品については內國税制の整備と關聯し、これが關税率の是正を行ふ事」とあるもの即ち是れで、滿洲國ではこの新關税法を得て初めて、これに先だつ僅かに月餘の間に徴收した通貨税賦課は不法ではないまでも、穩當を缺くだらうとの意見に轉向し、一たん取り上げた税收を納税者に拂ひ戻すこととし、それ〴〵通達を發して昨今それが實踐されつゝありといふ、それが又受領證引換の定めなるところ今はそれを紛失したものが多く折角の拂戻を受けられぬ向少からず、課税實施當時の狼狽ぶりと昂奮ぶりを今に及んで再現してゐる始末であるともいはれる、一場の悲慘なる滑稽である。

●●

陳情はなほ左の通りつゞく

一、通信は滿洲國郵便局取扱に係るため附屬地より二、三日配達が遲延する、電報また然り

二、瓦斯水道の設備を缺く

三、警備保安衛生設備がない

四、道路未完成のため交通運搬不便である

五、教育機關を缺く

併しこれには反駁が行はれてゐる、即ち右の點は工業地區そのものゝ本質から來てゐる、從つて企業者が企業目論見の初めにかて承知してゐた筈である、今更何の不平ぞといふのである、けれどもセメント工場の周圍に集團家居しながら程經て煙突の吹く粉末を邪魔にする話は有り過ぎる程有る世の中だから、その意味からは這個の不平も存在理由を持つといつてよい、

而もこれには若干の論據があるのである、土地會社の貸附條件は次の如くなつてゐる。

一、貸付期間、貸付當初にありては借受人の建築期間の滿三箇年とし竣工後に於て長期間の契約をなす

二、土地借受一時申受金、會社は前記施設に巨費を投じたるを以て貸付に際し借受人よりこれが實額一平方米に付金一圓二十錢を徴す

三、土地使用料、使用料率の高低は直接產業の興廢に至大の影響あるべきを以て會社は極めて低廉を旨とし一平方米に付月金四厘とせり

四、借地券の發行、建築の竣工後は借受人のため本券を發行し會社の裏書により不動產金融方策の途を講じたり

五、借地券の賣買、借受人は建築竣工後借受地の賣買（分割を含む）を爲すことを得るものなり

土地會社が完全に動き出す時は（四）（五）により地券や金融問題に關する不平は解消されるものとしても、未だその時期が來ないので不平が起る、而も（一）の中に「施設に巨費を投じたるを以て」一時申受金を徴するといつて居る點、一時申受金は通稱權利金といつて居るが、不平者の申分は會社がこの權利金を取つて置きながら施設をやらぬではないかといふにあり、前記不平の論據は主としてこゝに置かれてゐる、尤も不平の中で上水道のことが擧げられて居り、これは地區工事に於て下水工事があるのに上水道が無いのは如何といつて居る次第であるが、これなどは會社要覽の一節に「本地域は往昔の渾河の河床なれば十米餘の鑿井にて良水湧出し水量亦豐富なり」とあり現に造酒工場が多數約束されてゐると對照し、不平者の方に歩がないやうに思はれはする。

その外不平といへば會社の聲明では「本地域は東部に滿鐵北部に奉山線に各接壤せるを以て工業地區として最適の位置を占め物資の集散に便利なり」とあり、而もこれは會社の施設ではないが將來の奉天都市計畫に於て、渾河の水を堀割として地區の三方を取り卷くといふ設計もあるやにて、さすれば引込線と並びて水陸双方の便利は彌增すばかりである筈であるが、不平者は「ちつとも便利ではないではないか」とこぼすのである、從つて會社が動力につき「工場電力は滿洲電業公司より供給を受くる便あり」と聲明しても動力は近い撫順の石炭があるではないかと膨れ顔して納まらぬといつた始末である。

とにかく曾て白圖の上に引かれた「赤鉛筆」はこゝまで進展し來つたのである、いろ〳〵の盤根錯節はあつた譯で、就中土地會社の設立完了が遲れて居ることなどは難中の難といふべきであり、奉天商工會議所は特に之が打開のため關係者を招集十二月二十日協議を凝らすところあつた位であるが、それにしても何等かの辨法がなくて叶はぬ次第で、土地會社の聲明中に税金に就て「經濟地區は滿洲國の所屬なれば當然同國の税制により納入すべきものなるも本問題は過渡期にあり現に研究中なり」といつてゐる心情こそ鐵西工業地區の現實相に恰當した結論でなくてはなるまい。

●●

從つて滿洲工業會の陳情にあるやうな「これが打開の方策は工業地區を附屬地に編入せしむる」のは先走り過ぎる焦躁感の暴露であつてその後段「速に編入至難の事情ありとせば過渡時代に處する便法を講じ工業家の不安を一掃せられんことを切望して止みます」といふところに落着くより外はあるまい、土地會社創立委員長たる關屋奉天地方事務所長の所見はかうである

「いろ〳〵豫期したる又は豫期せざる難問題が出頭沒頭してゐることは事實だが、前途を見透して絶望とも悲觀とも片づけることは出來ないでせう、唯善處する、實際的見地から實効を目指して善處する、これがこの問題の指導原理でありませう」

とまづ以てそのへんに鐵西工業地區の行路は見出されるのであらう

履端布德　熙洽

和やかな高橋藏相邸の春

落語

七福神會我對面

入船亭　船橋

本年は亥歳でございまして前へ前へと進むらしい年でございますところで暦を見ますと今年中の事の吉凶が詳しく出て居ります。此の内「方惠」或ひは「明きの方」と云ふのがありますが、此の方角に向つて進めば何事も成就するさうでございます。そこで年頭の御祝儀に七福神がお芝居をしたと云ふ古風なお笑ひを一席申上げます。笑ふ門には福來ると申しますから本年は充分お笑ひあそばしてお暮しを願ひます。

さて我れ／＼藝人社會と申しますと、教育があり餘つて居りますので、それはそれは縁起を擔ぎまして、親愛なるマダムが、

「ちよいとお前さん、寶船を買つて置いたから、枕の下へお入れなさいよ」

「そいつは能く氣が着いたナ、二日は初夢姫初め、萬歳はオチヨケヨのマッチヤラコ鳥追ひがチヤラチヤラ、お獅子がトッピキピーといふ昔の唄も懷しや、名人の圓朝さんの俳句に

初夢や誰が見しもみな根なし草

併し吉夢なら根あり草にしてえものだ」

「お前さん、吉い夢を見たら、お互に話しッこにしませうよ」

「ウム宜いとも、ドレ臥鞭としやうか」

と一杯機嫌で横臥になると、

「ちよいと、お前さん見ましたかえ」

「まだ眠りやアしれえ……」

少時經つと、

「れえお前さん、見ましたかえ」

「それぢやア眠られやしれえ、少し靜かにしてくれ……」

今度は亭主の方で、

「なアおはな……ウムもう睡たナ罪のれえ女だ。若え時は同業間でも羨ましがられた容色だツたが、年を重ねると不味い面になるものだナ。何うだい此の鼾は……なんぼ今年は猪の歳でも怖ろしい鼻嵐だ…エッもう寢言をいつて居るぜ何んだと、お前さん嬉しいれ、何時の間にか御大名になつてさ、お駕籠に召して多勢のお供揃ひで行列嚴しく、そして前から町人がやつて來ると、御先供が大きな聲してエ、ホー、側へ寄れツ！ださささ、まア大層な權式だれ……とは、オイオイおはな、莫迦に時代な夢を見たナ……オイ誰だい戸を敲くのは……ナニ竹さんだと、今時分何んの用だれ」

「何んの用だとは暢氣だ。今日芝居へ行く約束ぢやアれえか、さア出掛けやう」

「さうさう全然忘れてゐた、さア行かう……ア、好い景色だナ。大入の札が出てゐる。

「オヤオヤもう中幕だれ、曾我の對面だ、初春だから吉例の曾我だれ。オヤオヤ俳優は七福神だ、五郎が大黑樣、十郎が惠比壽樣、工藤が福祿壽樣、八幡三郎が壽老人樣だ、梶原が毘沙門樣、大磯の虎が辨天樣、朝比奈が布袋樣とは顏揃ひだれ、番附を見てさへゾクゾクする、早く幕を開けろイ」

やがて、チヨン／＼／＼と云ふ木の音、すががきに通り神樂で幕が開くと、舞臺一面の淺黄幕直にバタバタで伊達奴の花道から駈け出しになる。後から同じ拵への奴、追かけて出になり、花道の七三で入れ替り、舞臺へ來て能き程に止り

（白奴）奴待て

（赤奴）俺を捕へて何とする

（白奴）何とするとは知れた事、其方の持つた其の一品、御慶申すとまき出しやア此場はお拂ひ扇箱、獸だなんぞと吐すが最期、引つてお旦那へ曳いて行くから覺悟しろ

（赤奴）ムハヽヽヽ、洒落臭え其の一言、俺がものした此の一品、汝等に渡してなるものか、一文凧の奴殿、糸目の切れぬ其内に、春風食つて消えてなくなれ。

（白奴）成らぬとありア一寸斯うして。

（赤奴）何を小癪な

と鳴物は八千代獅子にて立廻り赤奴はポンと當る。白奴ウームと氣を失ふ。

（赤奴）口程でもねえ脆い奴だ、ウムこの間にさうだ。

と上手の揚幕へ入る。後に白奴氣が付き、

（白奴）僅かな當身に氣を失ひ奴めを逃がしたか、遠くは行くめえ後追つ蒐けてオウさうだ。

と上手へ追つて入る、あと長き夜の鼓唄になる。

「長き夜のとをのれふりのみなめざめ、浪乘船の音のよきかな」

と唄切れると浪音を冠せて淺黄幕を切つて落す。

舞臺一面に浪の遠見、大海原、浪音を冠せてセリの鳴物になり、舞臺眞中へ五色の金襴へ金糸銀糸を以て寶と云ふ字を縫ひ出した寶船の帆、セリ出して段々と朱の高欄、龍頭の寶船が舞臺一面にセリ上る。

七福神、各々役々の心地にて譜面の見得よろしく道具止る、鳴物──音樂。

（辨財天）殿御ばかりの其中へ、虎とは少將慮外ながら、鐶も御多福辨財天。

（毘沙門）よしや吉原大門を荒出立なる毘沙門は、鬚を見立にげじげじと、梶原扮裝の敵役。

（壽老人）壽老と云へば翁の持ち出したる盃の、赤いはこれぞ赤澤山、さいつ押へつ皆さまが、酒をしひの木小楯に取つて。

（福祿壽）射落させしは斯く云ふ福祿、元日二日三ケ日に、自然と此の身に備はりし、是ぞ正しく福祿壽仙、早く祝儀を唄へ唄へ

（惠比壽）惠比壽三郎祐成が、岩の狹間に腰打ち掛け、釣綸垂れてゐる折しも、手に應へしはたしかに大物、手繰りて見れば是ぞこの御代も目出鯛、此の場の對面。

（大黑天）注連かけて、岩の戸排けし驚の、天上天下唯我獨尊、釋迦牟尼佛の化身にて、河津が小伜の五郎時宗、父の敵工藤左衛門祐經殿、イザ尋常に勝負々々。

（布袋）コレサ、朝比奈ならぬこの布袋が、茲にヅッシリ控へてゐる、わるいやうにはしれえから、腹も立たうが春の御祝儀、俺に免じて耐へろ、布袋ろ。

と、おのおの引張りの見得。舞臺の正面へ初つ日の出がセリ上り、陽氣な鳴り物にて幕になると亭主は思はず大きな聲を揚げました。

「蓬萊屋アー」

スルト家内が吃驚しまして

「モシお前さんお前さん」

「ア、ー」

「欠伸ごころぢやアないよ。あたしが熟く睡つてゐるのに、突然、蓬萊屋アーなんて胴間聲を揚げてサ、何にをうなされて居たんだよ」

「ウム、そんなら今のは夢であつたか」

「お氣取りでないよ、そんな寢ぼけツ面をしてサ、見られた態ぢやアないよ、若い時分には面長のところが五代目に似てゐるツてれ、お友達からも羨ましがられたものだが、年を重ねると不味い顏になるものだ事。（そんなら今のは夢であつたか）なんテ、役者衆の身振りなんか、如何に今年は猪の歳でもあンまり向ふ見ず過ぎるよ」

「まア宜いやナ、實はあンまりお目出度い夢を見たので、思はず蓬萊屋アーと賞めたのさ」

「それはよかつた事れ、どんな夢なの」

「面白かつたぜ。併し吉い夢を見たら三日の間他人に話すものではないと云ふから、止して置かう」

「オヤ、變な事を仰しやいますれ三日の間他人に話すものでないとすか、ヘエー、わたしは他人でございますか、そンな事を言はれた義理ではありますまい、そもそもお前さんとの馴れ初めは……」

「止せやい、若しも外へ洩れて、新聞か雜誌に書かれたら何うする人氣稼業の我れ／＼だ、世間樣の嫉みでも受けた日には、取り返しがつかれえやナ、今ウッカリ他人と言つたのは、智者も船橋の一失だ」

「お洒落でないよ。それでは其の芝居の話をなさいよ、面白いッて何の狂言なの」

「狂言は曾我の對面だが、其の出勤俳優が素敵だ」

「まア、誰と誰だの……」

「それはおめえ七福神だ」

「まア」

「役割はお預かりとして、その當り祝ひとして貰つた大入袋を開いて見ると……」

「な、な、なにが出たの……」

「さう押すなよ。それが五枚の債券で、直と翌月五枚共五千圓宛の當り籤で、五々の二萬五千圓の收入だ」

「まア／＼、モ一ッ附錄にまア……それから銀行も大丈夫な所にしたらうれ。何と云ふお目出度い事だらう、わたしはお前さんがお大名になつて御駕籠で、下にらう下にらうとお練りで來る、町人などが近づくと（エ、ホー側へ寄れッ）てさ、それはもう聞いたッて……お目出度い事は幾度言つても宜いよ。

目出度々々々が三つ重なれば、下の目出度が重からう。

といふ都々逸もあるよ。アラ、夜が明けたと見えて大層戸外が賑やかになつて來たさ、ガタピシ雨戸を開けて見ますと、お手廻し能く、向ふの方から七福神樣が御行列で、擔宅へ入つて來ますから、わたくしも家内も大喜びで、

「ヘイヘイ七福神樣、お早ばやさ……」

夫婦は低頭をしますと、

「惠方……あきへ寄れ」（完）

不便な正月

石川進

A「一寸ハンドバッグ拾つてよ！」

B「アラ！御自分で拾へないの…」

A「だって！お餅食べすぎて、帯の加減で拾へないのヨ！」

B「ホッ　ホッ　ホッ不便なお正月だこと！」

モダン小咄

歸つて來た理由

夫婦喧嘩は何とかも喰はぬと云ふが、戀愛結婚で一緒になつた彼と彼女氏、一夜大論戰の揚句、遂に彼女氏はお定りの家出となつてしまつた、彼氏彼女の出て行つた後、明日からどうして飯を煮やうかと思つてあゝやつぱり妻がゐた方がよいと心配してゐると、出て行つた筈の彼女が歸つて來た、だが彼氏

「おい、出て行つたものが歸るなんて何のことだ」といふと彼女の返事に

「だつて、もう一生あんたのとこへなんか歸らないと思つて行つたんですけど、電車の車掌さん、お忘れものはありませんか、お忘れものないやう御注意ねがひますつてしきりにいふんですもの」

うぬぼれ

友人が彼の結婚のことで心配して來た。

友人「だが、あの女は、なんだか氣が許せないところがあるよ」

彼「いやそんなことはないよ、ほんとに正直一方さ、といふ譯は昨夜逢つた時僕の事を世界一の色男だつていつてゐるんだぜ」

却つて赤面

奥樣「子供といふものはすぐに大人のまねをしたがるものですから少し氣をつけて下さいよ」

女中「本當でございます、この間もお坊ちやまは、私や嫌だ嫌だと申しますのに……」

奥樣「どうしたんです」

女中「……キッスをなさるんでございます」

目的

母「坊や、泣くのをおやめなさい一つ年をとつたんですから大きくなつたのよ、れ、坊やの好きなおかちん上げますから」

子供「いや／＼、もつと泣くよアーンアーン」

母「まあ、どうしたんでせうこの坊や」

子供「だつて大きくなつたんだから、おかちんそればつかしぢや足りないんだよー」

泥棒の一藝

刑事「オイきさま、何回厄介をかけるんだ、だがな、人間の性は善良なものだ、何か一藝に秀でゐれば、いやはに出ても喰つて行ける、一體きさまは何が得意か」

泥棒「たつた一つ泥棒だけです」

何が何だか

新婚の妻とその良人

「薪もお炭も御飯おいしくたけないんですもの」

「ぢや瓦斯にしようか」

「瓦斯はいや、新聞見ると瓦斯心中なんてあるんですもの」

「ぢや電熱にしようよ」

「電氣はなんだか危險れ、それにメートルをくふし」

「ぢや、いつそパンにでもしつちまふか」

謹賀新年

·皇紀2595·

哈爾賓

濱江省公署
省長 呂榮寰
總務廳長 金井章次
民政廳長 李叔平
警務廳長 赤澤辰三郎
實業廳長 葆廉
教育廳長 梁禹襄

北滿特別區長官兼
哈爾濱特別市市長
呂榮寰

哈爾濱特別市公署
總務處長 佐藤正俊

北鐵路督辦公署
督辦 李紹庚

第四軍管區司令官
北滿鐵路護路軍總司令
勳一位陸軍上將 于琛澂

江防艦隊司令官
司令官 尹祚乾

哈爾濱總領事館
總領事 森島守人

哈爾濱路警處長
李桂林

哈爾濱稅關
稅關長 俞紹武
副稅關長 江原綱一

哈爾濱鐵路局
局長 佐原憲次
副局長 吳英元

哈爾濱水運局
局長 佐原憲次

哈爾濱郵政管理局
局長 岐部與平

北滿興業株式會社

哈爾濱航業聯合局
總經理 高畑誠一

國際運輸株式會社
哈爾濱支店
常務取締役兼支店長 岡崎虎雄
支店長代理 津村精太郎

滿鐵哈爾濱建設事務所
所長 石村長七

哈爾濱セメント株式會社
專務取締役 辻光
哈爾濱地段街

北滿電氣株式會社
哈爾濱道裡透籠街三二號

百貨店
松浦洋行
電話三三九一 六四九一 三九八九 六四九二

前田時計店
前田利男

和洋紙文房具商
近澤洋行
澤田佐市
哈爾濱道裡中國十四道街
電話三七八四 四一八七 五二八六 五二八七 五七一〇

日滿製粉株式會社
中澤正治
（大連火曜會員）哈爾濱八站

哈爾濱交易所
島田千代治

高田號
哈爾濱道裡石頭街一〇號地

哈爾濱交易所
奥平廣敏

大阪每日新聞
滿洲日報
販賣店
森本柳作
哈爾濱石頭道街
電話三三八三番

哈爾濱旅館組合員
哈爾濱ホテル
花屋ホテル
北滿ホテル
北興ホテル
東洋ホテル
大陸ホテル
鶴屋旅館
名古屋ホテル
ナショナルホテル
樂山莊
雲仙莊
大和旅館
滿洲ホテル
二葉旅館
紅葉館
亞細亞ホテル
朝日旅館
佐賀ホテル
榮屋旅館
商務旅館
昭和旅館
敷島旅館
松花ホテル
日の丸ホテル
國際ホテル
中央ホテル
日隆ホテル

賀正

西暦・1935・

本溪湖・清津・新京

本溪湖

本溪湖煤鐵有限公司

伊藤幸雄
石川博見
井門文三
伊藤唯熊
大内佐藏
梶由又吉
上村政次郎
谷本憲一
野尻虎
山下寛
山本福三郎
増田増太郎
藤田仁知吉
小島喜久馬
小笹福太
荒木利恭
鮫島宗平
日高長次郎
滿洲銀行 本溪湖支店
本溪湖株式會社 (杭木)

(いろは順)

地方委員
守屋逸男
森雄二
阪田房夫
小林太市
宮崎小三郎
溝上已之祐
西松廣馬
野村一郎

清津

文化具品、紙類雑貨、アサヒ地下足袋、アサヒ運動靴 卸商 清津府明治町 上田廣商店 松岡茂藏
取引銀行 朝鮮殖産銀行清津支店 朝鮮銀行清津支店 電話二六番 電略(ウ)

清津雑貨商組合 (イロハ順)
石橋商店
奥村商店
近江屋呉服店
小川呉服店
高田洋品店
中島洋品店
中村呉服店
村瀬百貨店
浦木商店
上田廣商店

咸北清津府清津驛前 合資會社 滿鮮車體製作
特許保税工場 清津府浦項洞七八 滿洲國間島局子街 間島分工場 電話一九〇番

清津府浦項洞 北鮮製油株式會社

レコード石鹸製造元 合同油脂株式會社

清津府彌生町 (ITO) 合名會社 イトウ商會 電話三二一番

朝鮮咸北清津港 合資會社 大一商會 清津出張所 電話一二四番

清津府敷島町 清眞醫院

清津 鐵道醫院

清津府明治町 旅館 鷄林館 電話 (局)一五番 三二四番 卓上電話各室

清津 國際ホテル

清津 御旅館 清進館

清津カフェー組合
ライオン食堂
大阪
夢路
ミナト會館
ミカド會館

清津飲食店組合

清津料理屋組合
浮月
高抹庵
みやこ
精養軒
水月

滿鐵北鮮鐵道管理局

朝鮮咸北清津彌生町 株式會社 松本組清津支店 電話二一五番

清津府廳

清津商工會議所

清津土曜會
朝鮮銀行支店
朝鮮殖産銀行支店
朝鮮商業銀行支店
清津無盡株式會社

清津府相生町一 清津輸移出穀物商組合 電話四〇六番

清津材木商組合

清津港松坪 朝鮮油脂株式會社

朝鮮電氣株式會社 清津府彌生町

清津府北星町二三番地 國際運輸株式會社 清津支店

北鮮滿鐵土木建築業協會
事務所 羅津

岩村組
淀山組
西松組
北鮮興業
北鮮土木
龍山土木
大林組
大倉組
渡邊組
竹原組
高桑組
津田組
長門組
長田組
中村組
羅津興業
黑河組
山下組
安田組
松本組
松本工業
京城土木
深井組
福昌公司
鐵道工業
有元組
阿川組
淺野組
三木合資
志岐土木
杉野組

(清津イロハ順)
岩村長市
貞包又藏
田本長次郎
村上傳三郎
福田繁夫
池田兼三
櫻井謙二郎
橋本義則
大原末吉
竹田二一
保崎良幸
宮岡名一
富田敏郎
長島新藏
川島清三
古河信郎
黑下貫二
山田坂次郎
安田鐵治
數田薫三郎
松本秋造
田中勝治
眞金讓吉
深井七藏
林島彦作
中谷千代郎
角原喜二
梶野茂
淺本丑三郎
池屋
林野
吉
杉

新京

新京中央通一二番地 東亞産業協會

滿洲火柴公賣承辦處
長春洋火工廠
寶山燐寸株式會社
日清燐寸株式會社
吉林燐寸株式會社運送部

土木建築工事 設計施工請負 本店 奉天青葉町一四
碇山組新京出張所 新京興安胡同一〇三 電話 三三五三 八三九五 二三番

首都警察廳 警務科長 谷口慶弘

滿洲航空株式會社 新京管區管區長 樋口正治

滿鐵地方事務所 所長 荒木章

新京警察署長 高山勝司

新京地方委員會議長 法學士 辯理士 辯護士 大原萬千百

新京鐵道事務所長 芳賀千代太

新京郵便局長 高橋富十郎

滿洲電業股份有限公司 文書課長 須藤清

南滿洲瓦斯株式會社 新京支店長 青木哲兒

新京蓬萊町一丁目一五 堀山産婦人科醫院 院長 堀山研作 電話三一八〇番

新京八島通四十二番地 福昌公司新京出張所

新京取引所信託株式會社 事務取締役 山下善代

新京朝日通七九 岡組新京出張所 電話(長)二七八八番

新京八島通七七 福井高梨組新京出張所

大信洋行 村上照

新京日本橋通 金泰洋行 電話二一五九番

新京日本橋通 林洋行 電話二一六五番

新京日本橋通 和登洋行 電話二〇四〇番

新京日本橋通 品川洋行 電話 二二三〇 五七九 九七六 三九二番

名古屋日滿通商親名會 名古屋優良品紹介所 新京東五條通リ三番地電話(長)五二五六番

世帯道具と食料品の店 新京中央通三六 遠藤洋行 電話六七四九番

新京中央通三六番地 内田洋行新京支店 電話 三四七一 一四 六四番

新京日本橋通 新京百貨店 電話 三三一六 六三 一七番

大興股份有限公司
資本 國幣六百萬圓(全額拂込濟)
主要業務 當業、造酒、製油、雑貨賣買 財産の管理、代理業、公債社債券其他有價證券の募集並びに引受及び滿洲土産品取扱ひ
本店 新京特別市北大街第三十六號
支店 奉天、新京、吉林、哈爾濱
營業店 滿洲國内重要地一二六ケ所

新京自轉車組合員一同

新京旅館組合員一同

本店 新京 名古屋ホテル (日本旅行協會々員) 支店 哈爾濱、吉林 電話 事務所 二二〇七 交換臺 二五四〇・四九八九・四九九〇

新京中央通 國都ホテル 電話代表四四一五番

新京大和通 向陽ホテル 電話代表三八八二番

新装なる 扇芳グリル 支配人 落合幸三郎 新京水樂町一丁目一 電話四八〇四番

新京北州外料理店組合

新京三業組合
三業檢番

新京第一料理店組合

新京カフェー組合員一同

關東廳・滿鐵會社・陸軍・滿洲國政府指定
自動車自轉車人力車 オート三輪車並附屬品 建築用川砂及煉瓦 輸出入商
日米商會自轉車 米國インデアン自動自轉車 ジャーアント號自動三輪車 松田の自轉車福運號 岡本製作所能率號 發賣元
三菱商事株式會社 大連火災海上保險株式會社 明治生命保險株式會社 東京二葉屋商會 代理店
松田商會本店 滿洲國新京大馬路四九 電話(長)三九四九 四七六八 振替大連六一〇八番
支店 大連市大正通 電話(長)九三九七 六二番

新京三笠町二ノ六 青葉 電話二九四二番

新京吉野町三丁目 やよい 電話(長)三四九〇 五五三八番

新京吉野町三丁目 永樂 電話 五二 七一 二七 三九番

新京三笠町二ノ一七 ダンスキャピタル 電話三八〇六番

日本タイプライター株式會社 新京支店

新京梅ケ枝町 山葉洋行新京出張所 電話二五七一番

久松治
同仁病院

伊藤惣次郎
北原紙店

赤木洋行
廣春洋行

みしまや呉服店
やまき呉服店

江戸屋菓子舗
森野商店

油類一切並撫順米販賣 撫順公司

滿日舍 電話二四四三番 滿洲日報販賣店

滿洲日報 大阪毎日新聞 販賣店 大毎舍 電話二〇一七番
文房具及紙販賣

親鸞聖人 (88)

登岳篇　吉川英治作　山村耕花畫

大衆（九）

「どうしたのぢや、七郎どの、—いや孤雲どの」

「まあ、聞いて下さい」

庄司七郎の孤雲は、岩に腰をおろした。性善坊も、草むらへ坐つた。

憮然として、孤雲は、宵の月をながめてゐた。何か、回顧してゐるやうに。

やがて、そつと、瞼をふいて、もう何年前になるか、あの六條樣のお館へ、間者に入つて、捕まつた年からの事です」

「うむ……」

「主人の成田兵衛から、不首尾のかどで、暇を出されたので、家にある老母や妻子にはすぐ飢ゑが見舞ひます。そのうちに、京の大火の晩に、足弱な老母は、煙にまかれて死ぬし、妻は病氣になる、子は、流行病にかゝるといふ始末。さやうさ、惡いことつゞきのうちに、この身一人、生きながらへて、後の家族どもは、皆あの世の者となつてしまひ申した」

「それは、御不運な……」

性善坊は、慰めようのない氣がした。あの、平家の郎黨としての兵ぶりは、今の孤雲の影のどこにも見あたらない。

「一時は、死なうかと、思ひましたが、暇ならば、死れもするが、武家の飯をたべた人間が、飢ゑや不運に負けて、路傍で死ぬのも殘念でなりません。——そのうちに不幸は、私のみでなく、舊の主人成田兵衛さまも、宇治川の戰で、何かまづい事があつてから、御一門のお覺えもよからず、又、御子息の壽童丸樣は、次の、源氏討伐の軍に元服して、初陣したはいゝが、人にそゝのかされたか、臆病風にふかれたか、陣の中から脱走して、お行方知れずになつておしまひなされた」

「おゝ、あの、日野塾でも、範宴さまと御一緒に、机をならべてゐた若殿でござつたな」

「さうです。……爲に、父の兵衛樣は、人に顏向けができないと云つて、門を閉ぢてをられましたが近頃、宗盛公から、死を賜はつて自害されたといふ話……」

「あゝ、悲慘。——誰に會つても そんな話ばかりが多い」

「ふり顧つてみると、十幾歳のお年まで、お傅役として、壽童丸樣のおそばに仕へてゐたこの私にも大きな責任がございます。——自體、吾儘いつぱいに、お育てしたのが、惡かつたのです。ひとり、壽童丸さまばかりでなく、平家の公達のうちには、戰を怖がつて、出陣の途中から、逃げてしまふやうな柔弱者が、かなり多いのではございますが、まつたく、私のお傅の致し方にも、多大な過ちがありました」

「しかし、其許ばかりの罪ではない。御兩親の罪——また平家自身の作つた世間の罪——。何ごとも時勢ですから」

「でも、何うかして、いちど、故主の靈をなぐさめる爲に、壽童丸さまの行方をさがして、御意見もし、又、微力をつくして、一人前の人間におさせ申さなければ、濟まないと思ふのです」

「よう云はれた。暇を出された故主のために、そこまで、義をわすれぬお心がけは、見あげたものだ。——して、範宴さまを、訪ねてきた御用は」

「人のうはさによると、戰ぎらひの公達は、よく三井や、叡山や、根來などの、學僧のあひだに、姿をかへて匿れこむ由です。御像にすがつて、中堂の坐主から、もしや壽童さまに似た者が、山に登つてゐるか、ゐないか、お調べねがひたいと思つて、やつて參つたのでございます」

話し終つて、孤雲は、首を垂れた。足もつかれてゐるらしい、胃も渇いてゐるらしかつた。

新春二週物 ▼多情佛心 協映第一回作品、日活館第二週上映、寫眞は右より岡、江川、逢初 ▼鞍馬天狗 寛プロ第一回サウンド版、映樂館二週上映寫眞は寛壽郎の鞍馬天狗

若旦那日本晴れ　中央館第三週上映

「與太者シリーズ」に對抗する蒲田のもう一つの名物に「若旦那シリーズ」がある、お正月生れた「若旦那物」は「日本晴れ」と命名された、お正月のエクランを狙つたものである、監督は例によつて清水宏、主演は藤井貢、蒲田の女大御所栗島すみ子が一枚加はつて今度はオール・トーキーの八卷もの

落第ばかりしてゐるが今度はどうやら卒業しさうなラグビー選手の若旦那金太郎は父金兵衛と競爭で小唄の師匠美鈴派久江の下に通つたことが祖父に知れ、父と共に家を出て久江の下に養はれるが、この爲結婚申込み者は全部手をひき、その上戀人の松子まで失戀させてしまう、時に大學ではラグビー試合を控へて金太郎を必要とし、涙ぐましい友人の活躍で歸參がかなひ、遂に優勝し、戀人も手に入れる

小唄師匠通ひとラグビー試合といふ全然異なつた味を二つつき合せて至極陽氣な物語りが發展するが「若旦那」ものでも傑出したストリーを持つてをり、豫想以上に面白く見られる、清水監督は栗島の小唄と、坂本の咽喉とを巧に利用してトーキー的効果をあげ笑ひにも成功してゐるが、映畫的には前半の小唄稽古に成功し、ラグビー試合には失敗してゐるといつてよからう

藤井の若旦那、坂本の父、武田の祖父は相變らずの明朗さを持つて三代記の名を恥かしめず、栗島の久江は好ましい演技、池田監督に於ける臭味がないだけでもいゝ

さもあれこの一篇は「若旦那」ものゝ傑作であり、春の銀幕の一名物であらう—S—

新興音響版 鞍馬天狗　映樂館二週

新興キネマ提供の寛壽郎プロ新春特作オールサウンド版で、三部曲十一卷、第一回のオール・サウンド版であるが原作は大佛次郎で監督は曾根千晴、嵐寛壽郎とその一黨の外に新興より松本田三郎、月澄江が應援してゐる

幕末江戸を騷がす鉞り組に關し薩州藩が糸をひいてゐるとの噂が立つ、これを知つた鞍馬天狗は薩州の名譽、ひいては官軍の名譽のために眞偽を探るべく鉞り組の本據を狙ふが、鉞り組を續つて橋場の清七といふ江戸ッ子氣質の男と建部新太郎といふ覆面の怪人物が出沒し、料理屋かれだの娘お照をからまして鞍馬天狗を惱ますが、天野八郎等の彰義隊上野旗揚げの當日、建部の屋敷に鉞り組は全滅、鞍馬天狗に凱歌が上揚るが、建部新太郎の正體は……

以上のストーリーの如く筋は大佛次郎一流の興味中心で描かれてゐるため肩がこらず樂に見られ、お正月の娯樂物としては喜ばれやう第一回のサウンドも非常に効果をあげてゐるが、正月封切に急いだためか撮影に無理のあるのは惜い寛壽郎の鞍馬天狗は十八番物だけに颯爽としてゐる

賀正

公主嶺・鞍山

公主嶺

公主嶺地方事務所長 前田鉞雄

公主嶺警察署長 中川義治

公主嶺地方委員 議長 中本保三 副議長 大口靖太 議員 小松光治

（イロハ順）

滿洲銀行支店長 伊香善五郎
電信電話局長 吉川修平
懷德縣長 孫潤蒼
驛長 村瀬政之助
國際運輸營業所主任 山本正夫
正隆銀行支店長 増田重雄
大同電氣會社支店長 古川三郎太郎
在鄉軍人分會長 小松八郎
小松齒科醫院長 小松用太
懷德縣參事官 佐藤虎雄
滿鐵病院長 三田泰三
郵便局長 水口宇三郎
公學校長 宮野入傳愛

公主嶺地方事務所各係長 大瀧正寛 羽村洋雄 鶴見守孝

大同電氣㈱公主嶺支店
公主嶺石炭商組合 合利洋行 松昌公司 新華公司
滿洲銀行公主嶺支店
正隆銀行公主嶺支店

公主嶺藥業組合
公主嶺特産物商組合
公主嶺金融組合

陸軍御用達 和洋雜貨食料品 高取商行
武富洋服店
柳寫眞館
和洋雜貨、書籍雜誌、蓄音器類 小久保洋行

陸軍御用達 食料品、和洋雜貨、世帶道具 榮商店

陸軍滿鐵御指定 丸福旅館

公主嶺驛構內食堂 滿鐵倶樂部食堂 市場町 大丸旅館

公主嶺驛前 公主嶺ホテル
高等料理やまこ 電話一九七番

松原興行部

泉町 虎屋樂器店
花園町 高等御料理 喜久家
朝日町 カフエー 三邦
カフエー 國際會館
朝日町 生そば 第二更科
すし 會席御料理 いろは

鞍山

滿洲興業株式會社 本社 鞍山北二條町

滿洲土木建築業協會 鞍山支部

滿洲電業股份有限公司 鞍山支店

鞍山鋼材株式會社 本社工場 鞍山

滿洲亞鉛鍍株式會社 本社工場 鞍山

株式會社 昭和製鋼所 本社工場 鞍山 出張所 大連、東京

鞍山不動産株式會社 本社 鞍山南三條町

鞍山火曜會

鞍山中初等學校長團

鞍山市場株式會社

湯崗子温泉株式會社

鞍山輸入組合

滿洲銀行 鞍山支店

正隆銀行 鞍山支店

鞍山郵便局長 阿部敬四郎

鞍山電報電話局

滿鐵鞍山病院長 間野山松

鞍山地方事務所長 森景樹

鞍山守備隊長 酒井勝利

鞍山地方委員議長 長井次郎

鞍山地方委員一同

滿鐵鞍山病院一同

鞍山銑鐵共同販賣所

鞍山石炭販賣所

國際運輸 鞍山營業所

鞍山地方事務所 今三郎 吉田庫人 深井俊彦 宮本傳吉

鞍山金融組合 理事 小股忠助

野上一郎 清水組鞍山出張所

田代證券公司 田代貞雄 北一條町 電話一六六・七三六番

現株賣買 松尾商店 北三條町 電話一五一・五四九番

德泰公司 鞍山出張所 南三條町 電話一八六・五四三番

現株賣買 南滿商券 北三條二 電話六九九番

バージュン 北三條町 電話三九番

齋藤寫眞館 敷島町 電話七七〇番

一般倉庫精米業 日滿倉庫 鐵西明治通 電話二九四番

永順洋行 德井商事公司 德井資弘 南四條町 電話四七一番

左官請負 千葉幸太郎 四條町 電話四六五七番

蓄音機レコード樂器 榮商會支店 北二條町 電話六四五番

菓子煙草 松屋 北二條町 電話三七八番

喫茶 ミチル 北二條 電話四七四番

活動常設 演藝館 北一條町 電話五七九番

石川病院 北一條町 電話七三番

時計貴金屬商 蓄音機レコード 北川金光堂 北三條町 電話三五九番

運動具 最上商會 北二條町 電話五三五番

日用品呉服雜貨 滿洲購買組合 北三條町 電話五四・一〇一番

書籍文房具 大盛堂 北三條町 電話二四〇番

やまき呉服店 北三條町 電話二二三番

鐵西映畫館 世界館

御用達雜貨 神田商店 敷島町 電話五〇番

銘酒 白松酒造合資會社 大和町 電話二二四番

御料理 橘家 柳町 電話一二五・三五五番

御料理 一樂 柳町 電話一二七・一七五番

食道樂 [illegible]蝶 電話一一一番

食道樂 濱乃家 電話九一番

鳥料理 鳥福 電話三六〇番

割烹 一花 電話一八七番

レストラント キワダ 電話二六八番

御旅館 扇屋 北三條町 電話四二七番

御旅館 近江屋ホテル 北二條町 電話三三七・八番

大信洋行 鞍山出張所 大和町 電話一二三番

建築材料商 叶井商會 南驛前通 電話五六五・六七番

家具裝飾 一ノ瀬商會 北三條町 電話一八八番

化粧品小間物 野田洋品店 北三條町

小間物商 近藤商店 北二條町 電話四〇七番

現株賣買 鞍山證券公司 北二條町 電話三八〇・五八二番

新聞販賣 外山洋行 北二條町 電話四四四番

滿洲日報販賣店 精文堂新聞部 北二條町 電話八〇番

滿洲日報 鞍山支局 南三條町 電話一〇四番